

平成 28 年 3 月 31 日

新潟市中央区自治協議会
会長 豊嶋 直美 様

新潟市中央区自治協議会
拠点と賑わいのまち部会
座長 浅野 昌禧

平成 27 年度 未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化事業に係る
グループインタビュー業務 調査結果報告書について

標記の件について、別添のとおり報告いたします。

平成 27 年度
中央区自治協議会提案事業

未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化事業に係る

グループインタビュー業務

調査結果報告書

平成 28 年 3 月
新潟市中央区自治協議会
(拠点と賑わいのまち部会)

調査概要

1. 調査目的

新潟（中央区）の未来に備えた地域のにぎわい創出や活性化に向けた調査・検討の一環として、新潟市中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」で検討した活性化案について区民から率直で自由闊達な意見を出していただくことで、今後具体的な未来像をプランニングしていく一助とする。

2. 調査方法

グループインタビュー

3. 調査内容

「拠点と賑わいのまち部会」で検討した活性化案（別紙Ⅲ．資料参照）

4. 実施回数

1 グループ6名で4回実施

5. (1) 対象者（グループ）

グループ① 老年（60歳以上の男女）

グループ② 壮年（35～59歳の男女）

グループ③ 青年（学生を含む20代の男女）

グループ④ 女性（子育てママ、働く女性など）

(2) 参加者の特性

	グループ	性別	年代	居住地
A	① 老年	女性	60代	万代
B	① 老年	女性	60代	網川原
C	① 老年	男性	60代	西湊町通
D	① 老年	男性	60代	神道寺
E	① 老年	男性	60代	女池
F	① 老年	男性	60代	西区大学南
G	② 壮年	女性	30代	上大川前通
H	② 壮年	女性	50代	見方町
I	② 壮年	男性	40代	関屋田町
J	② 壮年	男性	30代	株川岸町
K	② 壮年	女性	50代	西大畑町
L	② 壮年	男性	30代	沼垂東

(前頁からの続き)

	グループ	性別	年代	居住地
M	③ 青年	女性	20代	親松
N	③ 青年	女性	20代	本町通 12 番町
O	③ 青年	女性	20代	女池
P	③ 青年	男性	20代	船場町
Q	③ 青年	男性	20代	二葉町
R	③ 青年	男性	20代	高志
S	④ 女性	女性	40代	関屋大川前
T	④ 女性	女性	40代	窪田町
U	④ 女性	女性	40代	万代
V	④ 女性	女性	40代	東大通
W	④ 女性	女性	30代	下大川前通
X	④ 女性	女性	30代	鏡西

6. 調査日時およびインタビュー時間

グループ① 平成 28 年 2 月 20 日 (土) 10:00~12:00 (120 分)

グループ② 平成 28 年 2 月 20 日 (土) 14:00~16:00 (120 分)

グループ③ 平成 28 年 2 月 21 日 (日) 10:00~12:00 (120 分)

グループ④ 平成 28 年 2 月 21 日 (日) 14:00~16:00 (120 分)

7. 調査会場

市役所本館 6階執行部控室 (20日)、4階401会議室 (21日)

目次

調査概要	1
Ⅰ. 調査結果概要	5
Ⅱ. 調査結果	9
1. 新潟の「好きなところ」「自慢できるところ」	11
2. 新潟の未来に備えた賑わいの拠点づくり／街づくり計画について	13
(1) まちなかに新潟の銘産品を集めたワンストップサービススポットをつくろう	13
(2) 空き家のリフォーム、空地、空き家の再開発などで居住者を増やそう	17
(3) 市民の心の拠り所となるシンボルを市民参加で創設しよう	21
(4) おばあちゃんの原宿的な街づくりや『市場』を復活しよう	24
(5) ソーシャルビジネスの事業計画とその支援事業のプロジェクトを立ち上げよう	29
(6) 鳥屋野潟の環境保護と観光事業の両面を有する自然共生型の市民の憩いの拠点を つくろう	32
(7) 歩いて暮らせる便利で住みやすい街づくりを計画しよう	36
(8) 各種イベントのリノベーションの有り方を調査・研究する機関を設立しよう	39
(9) 鳥屋野潟南部に新潟版『アニメ・ロボット・ランド』をつくろう	42
(10) 『イベント王国・にいがた』を目指した若者主導の事業を作り出そう	45
(11) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、生活しやすい街づくりや職場づくりを していこう	49
(12) 高齢者が安心して暮らせるサービス付きモデル住宅の在り方を模索しよう	55
Ⅲ. 資料	61
新潟の未来に備えた賑わいの拠点づくり／街づくり計画	63

I . 調查結果概要

調査にあたり、はじめに、新潟の「好きなおとこ」「自慢できるおとこ」を自由に語り合ってもらい、和やかなムードの下で活性化に向けた12の事業案についてインタビューを行った。

様々な意見が飛び交うなかで、とりわけ12の事業案を1つずつ個別に見た場合には、魅力がそれほど伝わらない内容でも、他の案と組み合わせることで、高い事業効果が期待できるものも多く、今後さらに磨きをかけていく必要がある。

1. 新潟の「好きなおとこ」「自慢できるおとこ」

- ・主に「食」、「自然」、「(昔の古町を含めた)街並み」が誇り。

2. 「新潟の未来に備えた賑わいの拠点づくり／街づくり計画について

(1) まちなかに新潟の銘産品を集めたワンストップサービススポットをつくらう

- ・「食」を中心として、体験施設等があり、県内各拠点への窓口となり得る施設を希望。
- ・「ピア万代」「ふるさと村」との差別化や交通インフラの整備が課題。

(2) 空き家のリフォーム、空地、空き家の再開発などで居住者を増やそう

- ・行政による把握・管理および税制面の優遇等の金銭的支援が必要。
- ・活用のアイデアは、「UI ターン者向け住宅」「シェアハウス」「学生寮」「ゲストハウス」「チャレンジショップ・ワーキングスペース」。地域コミュニティとして、子育てサポートの場として高齢者の活躍を期待。

(3) 市民の心の拠り所となるシンボルを市民参加で創設しよう

- ・「心の拠り所」となるものとして、「萬代橋」や「レインボータワー」、「食」等。既存のものへのPRを希望。
- ・観光シンボルとなるものを希望。

(4) おばあちゃんの原宿的な街づくりや「市場」を復活しよう

- ・高齢者だけでなく、子どもや若者、子育て世代等、各世代が楽しめる街づくりを要望。
- ・空き店舗を活用し、個性的な魅力あるお店で古町・本町を活性化、ブランド化。

(5) ソーシャルビジネスの事業計画とその支援事業のプロジェクトを立ち上げよう

- ・「困っている人」と「協力する人」をマッチングする仕組みづくりが必要。
- ・子育てサポートで、高齢者が活躍できる場として期待。

(6) 鳥屋野潟の環境保護と観光事業の両面を有する自然共生型の市民の憩いの拠点をつくらう

- ・景観や道路の整備でイメージを向上し、きれいで安心・安全な拠点づくり。
- ・水質改善効果や鳥屋野潟の恩恵を再認識させる教育への取組が必要。

(7) 歩いて暮らせる便利で住みやすい街づくりを計画しよう

- ・「歩いて暮らせる街」の理想を叶えるために、地域住民の自発が必要。
- ・交通インフラの整備が課題。

(8)各種イベントのリノベーションの有り方を調査・研究する機関を設立しよう

- ・費用対効果等、マーケティングに対する関心が高い。
- ・情報公開により、市民参加の促進を期待。

(9)鳥屋野潟南部に新潟版「アニメ・ロボット・ランド」をつくろう

- ・ロボット産業や航空産業等、ものづくりに必要な環境・基盤はある。
- ・新産業として、主にマンガ・アニメを活用したイベント・観光産業に期待。

(10)「イベント王国・にいがた」を目指した若者主導の事業を作り出そう

- ・若者が管理・運営について学べる、教育プロセスの構築が必要。
- ・古町はファッションイベント、鳥屋野潟は音楽フェスを要望。

(11)若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、生活しやすい街づくりや職場づくりをしていこう

- ・若者の不安を払しょくし、結婚・出産・子育てのイメージの改善が必要。
- ・行政による保育制度見直しや支援の充実、企業の理解で、女性が支障なく社会復帰できる環境に。

(12)高齢者が安心して暮らせるサービス付きモデル住宅の在り方を模索しよう

- ・施設の入居を希望しているが、金銭的不安が大きい。社会と関わりを持ち続けて暮らせる環境を要望。
- ・空き地、空き家を活用した高齢者向けシェアハウス等で、金銭的・精神的不安を解消。

II. 調查結果

1. 新潟の「好きなところ」「自慢できるところ」

『食文化、自然との共生、街並み』

酒、米、魚をはじめとした、「食」を「好きなところ」「自慢できるところ」と捉えている。普段から食べているものが「おいしい」と感じており、自分が他県に行ったときや、他県の方から褒められることが要因となっている。

海や夕日、四季を通じた景色を答えた人も多い。その四季折々の自然と調和した街並みにも誇りを持っている。特に高齢者では、堀を含めた昔の古町を懐かしく感じている。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	新潟の土地の素晴らしさ。特に秋の大きな大きな月。雪が降る前の雪の匂いや、すべて真っ白になるところ。冬は寒いですが、そこも含めて。
B	女性	60代	網川原	海。小さい時から泳いだりした。古町の下の方に生まれたので、今までの古町通りも。
C	男性	60代	西湊町通	海。西港から内野の向こうまで続く海岸線や夕日もきれい。それと、古町の花街。西新道、東新道の通り。昔のネオン街が忘れられなくて、今は寂しい気がしている。あと、魚が旨い。
D	男性	60代	神道寺	好きだった所という意味で、堀。特に西堀の柳や堀。小学校の低学年かもっと小さかった頃、早川堀で船に落ちた思い出がある。建物としては、三業会館。
E	男性	60代	女池	県として、佐渡、四季、食。
F	男性	60代	西区大学南	海や信濃川、鳥屋野潟等、水辺との接点。食、特に刺身。実家がある福島と比べ、新潟の人は毎回こんな贅沢な物を食べているのか、と感じる。新潟市民の気質はすごい財産。外部の人を受け入れる気質。大火でも燃えない、地震でも消えないこの気質は、ぜひ継続してほしい。
G	女性	30代	上大川前通	水や米。県外から来た人に、水も美味しい、お米も美味しい、と言われることが自慢できる。
J	男性	30代	秣川岸町	美味しい米、酒、魚。
K	女性	50代	西大畑町	本当に歩ける範囲内で生活できること。こんなにコンパクトなのは、なかなか無い。
L	男性	30代	沼垂東	とてもコンパクトに整っている所。食という面では、ズバ抜けて全国でもレベルが高い。
M	女性	20代	親松	食べ物がおいしい。新鮮な地産地消の野菜とか直売所が多くあり、新鮮な食べ物が安心して子どもに食べさせられるということ。
N	女性	20代	本町通 12 番町	食材がいろいろあり、新潟の食材だけで一つの献立が出来あがる。山の物も海のものも土地のものもたくさんある。地元の人同士のつながり。県外に出た時に、新潟出身と聞くと、それだけでワァッと盛り上がる。
O	女性	20代	女池	食べ物がおいしい。温泉がある。美少女図鑑の発祥の地で、きれいな人が多い。
P	男性	20代	船場町	一人ひとりの人たちが温かい。
Q	男性	20代	二葉町	食べ物やお酒が充実している。万代シティは夜になるとライトアップされてお洒落。その反面、海や山があり、新潟全体で景色がきれいな所がたくさんある。
R	男性	20代	高志	都市と自然の景観が調和できている。新潟の県民の雰囲気。ご飯がおいしい。
S	女性	40代	関屋大川前	食べ物がおいしい。ある程度の街の近くに、自然がある。県外から越してこられた方からよく言われる。「すぐに山が見えて、癒される」という話を聞いて、改めて「新潟はそうなんだなあ」と思った。

	性別	年代	居住地	コメント
T	女性	40代	窪田町	佐渡ヶ島が見られて、沈む夕陽がとてもきれいなところ。
U	女性	40代	万代	お酒がおいしい。他県から来た方に「魚介もお肉もとても食が豊かだ」と言われる事がとても自慢。やすらぎ堤の雰囲気もとても好き。
V	女性	40代	東大通	食べ物。特にご飯がおいしい。他の県では、食べられないくらい不味く感じる。外に行って、初めて新潟のお米のおいしさが分かる。
W	女性	30代	下大川前通	何かと便利。混み過ぎずに何でも買えて、ゴチャゴチャしてなくて、海あり山ありなところ。
X	女性	30代	鐙西	最近、沼垂の商店街が活性化してきていて、力を入れるところが上手で魅力的。食が良いこと。交通の便もとてもいい。県外等へ行くと、交通マナーにビクビクして運転する。新潟では割と1台ずつ順々に入れてくれる。走っていて優しさを感じる。

2. 新潟の未来に備えた賑わいの拠点づくり／街づくり計画について

(1) まちなかに新潟の銘産品を集めたワンストップサービススポットをつくらう

『食を中心として、新潟全体を集約した総合窓口としての拠点到期待』

『既存施設との差別化、交通インフラの整備が課題』

新潟市および新潟県の中心として、新潟をまとめて見られる・体験できる・食べられるところとしての拠点が欲しいと感じている人が多い。新潟の好きなどころ、自慢できるところとして意見が多かった米や酒、魚などの「食」を中心としたお店・施設への要望が多く、県内の各観光拠点の窓口としての機能も求められている。

既存の施設(ピア万代、ふるさと村)との競合を懸念する意見があるものの、「新潟は一品に特化した時に、何か所も種類がある。専門館みたいになっていると、行ってみたい(食べ比べ・飲み比べ)」「『港が見える所』で、『佐渡の魚が食べられる』というキーワードがとても効いている(ブランド化)」「ただお土産を売るだけでなく、体験できる等の一工夫が欲しい」等の工夫で差別化が可能だと考えられる。

場所のイメージは古町、万代、鳥屋野潟周辺と幅広い。駅周辺では「観光的ではない」という意見があった。古町で考えた場合、空きビルや空き店舗等、既存の建物を活用できると考えられる。

いずれの場所にせよ、課題として交通インフラの整備が挙げられた。来街者に配慮した公共交通の利便性や既存施設との連結性、施設利用者への駐車場の確保が求められている。

一方で、「ピア万代」でも「平日は閑散としている」といった意見もあり、観光客だけでなく、地域住民が多く利用できるような仕組みがなければ、経営的に難しいのではないかと、といった懸念もある。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	利便性の高い物をまちなかに作りたいというのは、とても共感できる。「ピア万代」は歩いて10～15分なので、昼食や買い物によく行く。特に魚が近所のお店より良い。「ピア万代」の場合、県外から来た人は車がないと行きにくい。県外から来た人が、徒歩や自転車で行けるように、施設への利便性を考えて頂きたい。最初の頃の「ピア万代」はそれほど人気でなかったが、どんどん口コミで広がり、今では観光バスが止まるほど人気がある。口コミでどうやって広げていくかも重要。万代周辺ならNGTの効果もあり、集客が期待できる。
B	女性	60代	網川原	今までにない物を考えると、人を集めるには、華やかさや利便性を考えていかなければならないと思う。
C	男性	60代	西湊町通	食中心のお店になると思うが、「ピア万代」や「ふるさと村」等の施設とバッティングする気がする。海岸線にコンサートなどのイベントを定期的に行うような施設をつくれないうだろうか。県外からの来県者に冬場の荒波を見せると、感触が良いので、見学する施設としても活用できる。海にそういう何かを作っていたらいいと思う。
D	男性	60代	神道寺	「ピア万代」や「ふるさと村」等の施設とのバッティング、類似性等を考えると、方向性を変えた方がよい。場所は古町・西堀・東堀、特に7番町・8番町で、広いスペースを確保出来る既存の建物を活用する。1つのビルでなくても、2～3のビルをうまく活用して、大きな看板なり姿が見えるような物産館的なものであれば、集客は可能。駐車場問題、交通インフラの問題がある。それも含めながら、他の施設と連関して繋げていけるような拠点の施設。

	性別	年代	居住地	コメント
E	男性	60代	女池	市民と来街者の両方に対して、満足度が高い施設。寿司・ラーメン・カレー・米等、食中心で、地元の人達が集まるように地場野菜も。沢山のお店が集まる施設となると、スペースと駐車場の問題が出てくる。鳥屋野潟にやすらぎ堤の様な緑を増やし、そこに施設があればよい。「ピア万代」は最初の頃に少し行ったが、久しく行っていない。「ピア万代」の寿司屋は、「港が見える所」で、「佐渡の魚が食べられる」というキーワードがとても効いている。東京の人はそれが目当てで行くらしい。本町通りの買物客だった人は「ピア万代」へ流れているようだ。
F	男性	60代	西区大学南	基本的に今までの新潟のまちづくりは、市民が自力でやっている。出来れば、市民自身が魅力や資源を認識した上で、出資してつくりたい。若い人や女性、外国人等、外からの力も入れながらできるのではないかと考えている。外貨を稼ぐだけでなく、還元できるような拠点としてほしい。それが叶うなら、場所の要望はない。
G	女性	30代	上大川前通	あってもよいと思うが、「ピア万代」や「ふるさと村」と同じような物を造っても、メリットはない。プラスアルファとなる、秀でた物があれば、考えてもよい。ただお土産を売るだけでなく、体験できる等の一工夫が欲しい。
H	女性	50代	見方町	新潟の既存の拠点の中に一つ一つ店があるが、統一性がなく、足が止まらない。時間帯的にも開いていないお店が多かったりする。道の駅的な物をつくろうと思っても、小ぢんまりしたものでは難しい。県や市等、行政の大きな力で動かないと、街並みや風景がダイナミックに変わらないと思うので、これはどうなのかなと思う。
I	男性	40代	関屋田町	あったらよいと思う。単体だと、きつと難しい。「ふるさと村」にしても、「ピア万代」にしても、東京のお客様を迎えた時に行き難い。新潟は来ると非常に良い、とよく言われる。車ですぐ温泉に行けたり、村上の鮭を食べたい時に、電車ですぐ行けたり、すぐ田園が見られてきれい等。各地の特産や観光と、きっちりと結びつくような形でビジネスモデルをしっかり作り、繋がり・連携をダイナミックに徹底的にやる。例えば、温泉協会との繋がり等、集約するものがそこにあり、各観光拠点へどう移動させるのか、行ったらどのように帰ってくるのか等。そのくらいのビジネスモデルをつくらないといけない。そこまでやれたら良い。
J	男性	30代	秣川岸町	拠点づくりは不要。「ピア万代」は、本当に偏ったところだけ採算が合っていて、他のところは入れ替わりが激しい状態。車が停められるにも関わらず、平日はガラガラ。土日祝日は集客が見込めると思うが、入れ替わりを見ている段階で難しい。それをまちの中に造れば、なおさら難しい。
K	女性	50代	西大畑町	以前、公的な所の受付に勤めていたことがある。県外の方がたくさん来て、「新潟の物をまとめて見るとしたら、何処？」と聞かれるが、無い。新潟駅まで行って帰るまでの、待ち時間のほんの1、2時間の間に新潟の名産をまとめて見る所を聞かれて、「ありません」と言うのが悔しかった。この案を見た時、欲しいと思ったが、まずは車の問題がある。交通機関がしっかりしていて、5分も待てば次が来るような間隔であれば。今の古町界隈で、まずバスに乗ろうと思ったら、「何処から乗るの？」から始まる。拠点が出来ればそこから延ばして行くことが出来るかもしれない。場所としては、古町周辺。駅周辺では観光的ではない。財政面や他のインフラ、特に交通関係を考えると、古町周辺に欲しい。
L	男性	30代	沼垂東	必要ない。まずは採算性の問題。「ピア万代」が成功しているかという、部分的に成功していても、全体で見ると、難しい部分もある。「ふるさと村」も、単体で見ると、毎年赤字の状態であるという所もある。どこに造るのか、運営主体を、民にするか、官にするかを考えると、非常に難しい。もし造るとすれば、建物は公設で、運営は民間でないと、財政負担が将来的には市民に回ってくる。

	性別	年代	居住地	コメント
M	女性	20代	親松	「ピア万代」は、佐渡のお寿司屋「弁慶」が好きで、よく行く。生ものを持つことを考えると、買い物はできない。魚が大きいまま売っているし、万代に寄りたいたい時もある。県外から来た人等は、新潟のイメージと言えば、米と酒と新鮮な魚。そういったものが一気に揃い、そこへ行けばお土産等も全て揃うというのがあればよいと思う。「ピア万代」でも、閉店しているお店が増えてきている。「弁慶」は混んでいるが、一方は閉店していて、差がある。一店が閉店しているとガラとした感じがする。すべてが活性化するようになればよい。新しく造る場所として、駅周辺、万代、古町あたりが良いと思う。公共交通機関で少し歩いて行けるような所だと行きやすい。
N	女性	20代	本町通 12 番町	「ピア万代」へよく行く。セルフ片山は、自然に気を遣ったもの等があるので、そこで買い物する。夏はバーベキューの様に串焼きを焼いているのを見に行ったことがある。できて最初の頃は駐車場が入り難かった。入れるようになったと思ったら、閉店しているお店が目立っている。何をにしても、持続性。駅にある「ぼんしゅ館」のように、特化した物が何か所かあると、「そこへ行ってみようか」というツアーになり、名産品を見てもらえる。例えば、新潟の日本酒なら酒造だけで 90 ぐらいある。新潟は一品に特化した時に、何か所も種類がある。専門館みたいになっていると、行ってみたい。
O	女性	20代	女池	「ピア万代」はたまに行く。場所の問題が気になった。県外から友達を呼んだ時に、新潟は車がないととても不便。良い物があっても、車がないと行けない。もっとバスやシャトルバスを出す等、行きやすさをつくるのが重要。新潟駅周辺や万代周辺だと、更に混む。混むと逆に行きたくないという人も出て来るかと思う。郊外に造って、バスを出した方がよい。
P	男性	20代	船場町	「ピア万代」は行かない。歩いてでも行ける、という部分を考慮して、もっとアクセスのよい場所に造るべき。
Q	男性	20代	二葉町	「ピア万代」は行かない。主に車で来る新潟県民以外の人に利用してもらおう事を考えた時に、アクセスの面から考えて、高速インターの近くに造る。
R	男性	20代	高志	「ピア万代」は行かない。地元の人が頻繁に行けるためには、交通の便を良くする。銘産品を集めて売るだけではなく、頻繁にイベント等を催すと、より知名度が上がってよい。
S	女性	40代	関屋大川前	「ピア万代」へ何回か行った。平日はガラガラ。平日の昼間に行くと、パッと車を停めて買い物ができるので、得した気分にはなる。「ふるさと村」では土日にイベントが行われている。新潟のおいしい物を出すイベントがあったりしても良い。車で動く人が多い。駐車場がきちんと確保されていなければ、普段車で動いている人はなかなか行きづらい。本町や古町は、どこに停めて、どうやって行くか、を考えなければいけない。駐車場が確保されていた方がよい。
T	女性	40代	窪田町	「ピア万代」へは、たまに行く。「ピア万代」は成功例なのかなあ？と感じている。何度か行って、面白いチーズが売られ、新鮮なお野菜もあり、良い所だとは思う。土日は駐車場に入るのが大変だが、平日は閑散としている。「ピア万代」のような物を、駐車場を広くとって、きちんとした建物で、本町の辺りにあったらいい。8 区の銘品を集めるというのも、定期的に「今月はこの街の売り」というように開催して欲しい。もっとリサーチをして、ある程度の予算をつけて、大々的に本町、古町界限を活性化していただきたい。
U	女性	40代	万代	以前、旧大和の斜め前、本屋があった所に、野菜を売る場所が出来た。行こうと思った時にはなくなっていた。造る時に詰めが甘かったと思う。どんな人が来て、どういった商品を置いたら定期的に来てくれるか、をもっとリサーチして、考えて造らなければいけない。新潟市8区の銘品も、決めてしまうと飽きられる。プラスアルファで、月によってイベント的なことをしても良い。

	性別	年代	居住地	コメント
V	女性	40代	東大通	今朝も「ピア万代」へ行って来た。沼垂に住んでいるので近い。沼垂の辺りにはスーパーがない。イオンもあるが、ピア万代で野菜を買うようにしている。穴場的に安く、とても商品が良い。ただ誰も知らない。宣伝が足りない。とても良いのに、みんな知らないのはもったいない。「ピア万代の成功」とあるが、まったくそう感じていない。もっと観光客を取り込みたいでしょうが、駅から遠い。「ピア万代」を知らない人、どうやって行けばいいかわからない人がある。ピストン輸送をするようなバスがあると、とても良い。他にまちなかにこういった物がいっぱいあったら、とても良い。例えば観光客相手に「ピア万代」のような所を循環するようなバスを出す等。エリアとしては、鳥屋野潟の方とかにあちら。そこを回るようなことが出来たら良い。
W	女性	30代	下大川前通	お土産を買うという事は、観光地にかかせない事。そこに行った証。家族用や、自分用に買う事は、大切なことだと思っている。地元沼垂のオリジナルの銘柄産をつくらうとしているので、銘産品を集めるという事に非常に興味がある。だが、「駅」があり、「ピア万代」があり、「ふるさと村」もあるので、また新しい所をつくるという発想は、考えにくい。
X	女性	30代	鑑西	「ピア万代」へ行った時、混んでいて諦めて帰ったことがある。「ふるさと村」もずっと待ってはいなくてはならなかった。それが苦。平日の昼間に行っても、買い物はしやすいが、安い物がない、イベントはしていない、このお店は閉まっている、といった事ばかり。土日だけではなく、平日に動く人もたくさんいる。何か新しく造るより、こういった所の平日にもっと力を入れた方が活性化していくと思う。

(2) 空き家のリフォーム、空地、空き家の再開発などで居住者を増やそう

『空き家・空き地対策への関心は高い』

『税制面での優遇や、組織的な把握・管理等、行政の支援・サポートに期待』

空き地・空き家への対策が必要だと感じており、空き地・空き家の活用に対して、税制面での減免措置や優遇等、行政による支援・サポートが求められている。

「空き家があっても、誰に交渉してよいか分からない」との意見がある。空き家を活用する上で、「空き家バンク」といった組織的な把握・管理の必要性和、窓口の設置が求められている。

活用のアイデアとしては、新潟での就労(農業等)や移住を考えている人への「UI ターン者向け住宅」、若者同士、高齢者同士で共同生活する「シェアハウス」、市街地周辺の学校に通う学生向けの「学生寮」、旅行者(主にバックパッカー)向けの「ゲストハウス」、新規出店者向けの「チャレンジショップ、ワーキングスペース」等の意見が上がった。コミュニティとしての活用では、「高齢者サロン」としてだけでなく、高齢者や地域住民が子どもに折り紙を教える等、世代を超えたふれあいや子育てサポートの場としての活用にも期待している。

高齢者サロンや民泊として利用する場合、バリアフリー化やリフォームが必要となる事が懸念されている。解決案として、「空き家をリフォーム(DIY)する講座を行い、会場としてその空き家を使う」といった意見が挙がった。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	無料で芸術家に貸したり等、県外でも様々な取組みがされているが、定着してもらわないと意味がない。沼垂商店街等は、今は様々な人が集まり、立派になり、成功している。そういう形になるのが理想だが、リフォームして作っても、若者や居住者が増えるかどうか、その解決が課題。現実味がないと感じた。
B	女性	60代	網川原	今は、元気な60代の方が多い。そういった方々が、集まり何かをする、集めてどうしていくかを考えることが大事。
C	男性	60代	西湊町通	早川堀周辺の両サイドも空き家が結構ある。そこに市から助成してもらい、飲食店や、西堀ローサのチャレンジショップの様なお店を若い人に出店してもらおう。それには駐車場の問題があるが、とにかく人を多く集め、年間を通して少しでも、土日だけでも賑わうようにする。
D	男性	60代	神道寺	女池ですら空き家はある。市内のかなり広範囲に空き家があると思う。そのような空き家を「空き家登録」のように組織的に把握していく。プライバシーやセキュリティの問題があるので慎重に行う必要があるが、そうした登録により、一定の見回りの管理を行う。空き家を、「高齢者向け」、「若年層 UI ターン者向け」と選別し、広報が PR していく。公的資金の補助も含めて行えば、若年層向けは人口増につながり、高齢者向けは独居老人のフォローやカバーに繋がる。
E	男性	60代	女池	居住者を増やすことで考えると、I ターン者にどれだけ来てもらえるかが重要。金銭的問題が出てくるが、税金でどの程度まで出来るか。居住者を増やすのは厳しいと思う。空き家の把握も大事だが、商店や住居が同時に存在する金沢の茶屋街のように、ある程度の規模でまとめ、商業地として街並みをそろえて行く。空き家を利用し、職場近くに子どもを預けられる場所を作ることも、方法として考えられる。

	性別	年代	居住地	コメント
F	男性	60代	西区大学南	街並みを守りながら、何棟かをまとめてリノベーションして別な使い方をする。50年以上経つものは、街の遺産として登録文化財に申請する。旅行者が安く泊まれ、他の旅行者との接点にもなる「ゲストハウス」として使う。京都等ではどんどん行われている。突然移住というのは現実的でない。「お試し居住」で買物の利便性や食等を知ってもらう。地元の人と馴染むまでの時間にもなる。
G	女性	30代	上大川前通	空き家対策について、新潟で行っているのを見たことがなく、テレビ等で他の市町村が行っているイメージしかない。
H	女性	50代	見方町	空き家や空き地が、駐車場になってしまっている。個人ではなく、みんなで借り上げる形で、若い方達が住みやすい住居として進めて行く方が、もっと生き活きする。専門学校等あるが、それにつながるような住居が無い。若い年齢層が、住みやすく借りやすく、住み心地がいい等、そういう風景にしたらどうか。
I	男性	40代	関屋田町	大きい空き地が多くなった。関屋に住んでいるが、子どもの頃に比べると、空き家がどんどん増え、空き地も駐車場になり、寂しい。民宿や、若い方々の借り上げ住居スペースもよい。新潟に住んでもらいたいという事では、若い人で、フリーランスで動く方や新しく起業される方向けのワーキングスペースのようなもの。拠点として気軽に、ハードルが高くなく、それを誰かがサポートできるようなものがおもしろい。
J	男性	30代	秣川岸町	自分自身が家を建てようと思っている。新潟島下手等に空き家、空き地があるが、誰に交渉して買い上げればよいか分からない。「売りたい人」と「買いたい人」の橋渡しを行政で行ってもらえると、とても助かる。パッと見て、どこに何がある、空いている、買える、というものがあれば、とても交渉しやすい。廃校している学校等も多いので、許可・地域の垣根を越えて、食品工場等を建てると、近隣住民の方の雇用促進にも繋がると思う。
K	女性	50代	西大畑町	実際に倒壊しそうな空き家でも、固定資産税を払っている人は、古くても壊す訳にはいかない等の問題がある。本町周辺で、空き地を畑か何かにして、近隣住民の方に使わせてという新聞記事があった。どのような形で交渉し、どれだけの事をしたのかという思いで記事を読んだ。民泊みたいなものがあれば、安くなるだろうし、便利だと思うが、耐震設備等、ちょっとしたリフォームとはレベルが違う。バックパッカーが集まる所は、世界中どこにでもある。日本だけ分からない。それを考えた時に、新潟の人は、こうやって暮らしている、という様な飾らない感じでリフォーム出来れば、素敵。
L	男性	30代	沼垂東	相続の問題や、税金の問題が非常に絡む。一つの自治体で何とかできる問題ではない。国の施策が相当変わるので、そこから動きは活発になってきてはいる。新潟市(行政)ができる場所は、やはり税金を何とかする。例えば、若い人がリフォームをして住みたい、となった時に、減免措置の規定を作る等。金銭的な補助や、補助金を上手に使い、取得費用やリフォーム費用にすることをやる。
M	女性	20代	親松	その地域の共有スペースにする。例えば子どもの遊び場。家を貸し、昼間はお年寄りが憩いの場として集まる。夕方からは小学生。そこがみんなの家みたいに、コタツを置いたりする。おじいちゃんおばあちゃんがコマ等の昔の遊びを教えたりする。誰でも行けて、お茶が飲める所があることで、地域のつながりができ、子どもをみんなで育てる。そういうのが大事。変な人にさらわれたりしないというのが大事。そういうスペースがあれば、お年寄りも安全だと思う。管理する人も必要だと思う。
N	女性	20代	本町通12番町	自分の家の周りも空き家が多い。空き家の利用で高齢者サロンや介護施設となった時に、段差が多かったりする。このまま介護に使うとしたら、確実にリフォームが必要。それより、若者が魅力を感じるシェアハウスや企画等を設けて、使ってもらう方がよい。

	性別	年代	居住地	コメント
O	女性	20代	女池	新潟は農業のイメージが強いが、農業をしている方の年齢もどんどん上がってきている。農業に携わってくれるような若い人を募集して、低い家賃で貸し出したりすれば、農業も栄える。
P	男性	20代	船場町	空き家の利用として、若者のシェアハウス。周りでシェアハウスに住んでいる人が数人いる。東区では若者たちが一緒に住んで生活し、まちなかプロジェクトというものも発信している。最近、上古町の方にもその様なシェアハウスが出来た。地方創生という部分では、空き家利用でシェアハウスを造っていけば、色々な波形が生まれるのではないかな。
Q	男性	20代	二葉町	周りも結構空き家がある。高齢化と言われている中で、高齢者サロンや老人ホーム等を空き家の場所につくるのは、一つの考えとして賛成。とても良い。優遇策の面で、空き家等をリフォームして入人には家賃を安くする。来た人に楽しんでもらえる様に、市町村でイベントを計画する。
R	男性	20代	高志	高齢者の居宅介護施設としての活用は良い。貸家であれば、大幅に家賃が安いという優遇策があれば、移住しよう、となる。空き家付近の施設等も充実していた方がよい。空き家だけでなく、周りの地域の活性化を同時に推し進めて行くといい。
S	女性	40代	関屋大川前	古い空き家だと、古い良いところを残したいという気がする。今の新しいとても便利なものと違った、良いところを残しながら。みんな便の良い所に住みたくなる。そうではないところを学生に格安にして、中を使いやすいように変えると、住むようになるのではないかな。
T	女性	40代	窪田町	近所にも空き家が数軒ある。「もう使えないだろう」というくらいの空き家もある。郊外に土地を借りて畑をしている。新潟はいろいろな物がおいしく採れるので、空き地を利用して畑をさせてもらえたら良い。農作業に興味のある人もいる。空き家を更地にして、地産地消といったような事が出来ないか。新潟の人口減少を考えると、新潟市の教育を充実させてほしい。学びたいことの為に県外に出る人が多い。帰って来なくなる。新潟の教育を充実させることで、県外からも学生に来てもらおう。新潟で結婚してもらえると、少子化減少にもつながる。そういった方たちに、リメイクしたお家をシェアハウス等で活用して住んでもらったら良い。
U	女性	40代	万代	空き家をシェアハウス等に利用すると良い。魅力的だと思うようにリフォームしたら良い。例えば文化講座等で、空き家をリフォームする講座をして、会場としてその空き家を使う。リフォームした後にホームページ等に掲載して、入居者を募ったりするのも面白い。この前、自分で家の壁のリフォームをした。壁紙を買いに行ったホームセンターでは、壁の貼り紙講座をしていて、人気があるという話を聞いた。そういった需要はある。壁に限らず、家のメンテナンスを講座で立ち上げて、1つの家をきれいにしたら魅力的になる。人も入居して良い循環になるのでは。
V	女性	40代	東大通	空き家は地味で良くない印象。年寄りが入るのではなく、若い人が入居するのが良い。古い家に年寄りが入っていると「かわいそう」な感じ。Iターン、Uターン等で帰って来る若い人に、市が優先的に空き家を提供して、県外から人口が集まってくれたら良い。リメイクして、安く貸し出す等も良い。新潟市に人口が入って来るように使うと良い。ターゲットは若者で。
W	女性	30代	下大川前通	1つ手掛けた事例がある。オーナーから声を掛けていただき、元時計屋だった所を古本屋にしてオープンさせた。空き家を持っている方と、使いたいと思っている方とのマッチングで、間に立てた良い例。活用したいと思っている方は、どこに相談すればいいか分からない。窓口となる受け皿を設けたら良い。空き家を活用したいと考えている方はたくさんいる。ぜひ欲しい。

	性別	年代	居住地	コメント
X	女性	30代	鏡西	事業案 11(若い世代の結婚・出産・子育て～)、事業案 12(高齢者が安心して暮らせる～)と絡めて考えた。市営住宅のようにしたら良い。古い家を買った時には、後からリフォーム代が掛かる。コストを考えた時には、手が出にくい物件がたくさんある。市営住宅のようにして、お年寄りや若い世代が共存して、「コンパクトなまちづくり」「歩いて暮らせる」「人とのつながり」ができる市営住宅をつくっていけるのではないかな。

(3) 市民の心の拠り所となるシンボルを市民参加で創設しよう

『萬代橋・レインボータワーをシンボルとして認識』 『既存施設や文化遺産をシンボル化・ブランド化し展開』

「心の拠り所」としての大規模なシンボルの創設はあまり考えていない。シンボルは、歴史や背景から自然と生まれるものと感じていることが要因と考えられる。既存の新潟市のシンボルとして、「萬代橋」や「レインボータワー」を連想している。それを「ゆるキャラ化」や「ライトアップ」等で展開、PR するほうが効果的と感じている。その他、新潟をイメージできるものとして、「食」や「自然(夕日、日本海、雪等)」等、無形のものやシンボル化・ブランド化するとの意見が挙げられた。既存の有形のものや、無形のもの魅力を見つめ直し、そこに付加価値をプラスし、PR するといった考えが多かった。

意見として挙げられた、有形のもの、無形のもの

有形のもの	萬代橋、角田山、朱鷺、縄文土器、マンガの像、ドカベン像、ビッグスワン、レインボータワー、やすらぎ堤
無形のもの	夕日の赤、空の青さ、日本酒や雪の白、秋の大きな大きな月

観光拠点や待ち合わせ場所として、マンガ・アニメの像等、シンボルはあってもよいとの意見がある。「デンマークにある人魚の像も小さいけれど、世界中から 600 万人も集まっている」とあり、小規模でも世界的な観光名所として印象付けることは可能だと考えられる。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	物にこだわらず、イメージをシンボルにしたら良い。新潟で一番好きなポスターがある。一つは夕日の赤を、全部赤にしてある「紅の国」。もう一つは空か何かで極端に対比させた「青の国」。夕日の赤、空の青さ、日本酒や雪の白で、「赤・青・白」の三色を新潟のイメージとして刷り込ませればシンボルになると思う。秋の大きな大きな月もそう。既存の建物であれば、萬代橋。
B	女性	60代	網川原	シンボルというと、長い歴史から来る物が多い。今、必要なのか。今シンボルになりそうだと思う物は萬代橋。
C	男性	60代	西湊町通	この様なシンボルが必要なのか。新たにシンボリックな物を作り、観光客や県外から集客するというのではなく、新潟市の人口が増えて、新潟が活性化すれば、自然とシンボルは生まれてくるのではないか。萬代橋が最たるもので、萬代橋以外に何が要るのか。萬代橋や昔からある物をもっと活用するとよいのではないか。シンボルは自然と生まれて来ると思う。新たに作らなくてもよい。
D	男性	60代	神道寺	新潟の歴史から考えると、シンボルとして出て来るものが無い。強いて言うとう、何度も架け替えられた、萬代橋。シンボルを造り難いことは確か。観光拠点としては、様々なテレビの旅番組で、なかなか新潟は出てこないが、ある番組で萬代橋が終点になったことくらいはある。その意味で萬代橋をもっと。キャラクターやマスコット、あるいは、あちこちにミニ萬代橋、建物もミニ萬代橋、のような展開が出来るのではないか。

	性別	年代	居住地	コメント
E	男性	60代	女池	少子高齢化ということも、シンボルの創設が先なのか、女性や育児・出産にやさしい街づくりを目指す事が先なのか。人口を増やして行くことは20～30年掛かる。シンボルの創設がそのような事につながっていけば良いと思うが、女性や育児・出産にやさしい街づくりが先だと思う。どの様に、どの程度のお金が掛かって実現できるのか。ランニングコストも掛かる。結論としては、難しいと思う。
F	男性	60代	西区大学南	シンボルは高く大きいのは定番だが、「自由の女神」でもフランスにあるのは小さい。デンマークにある人魚の像も小さいけれど、世界中から600万人も集まっている。新潟の人のハートが一つになる様な物であれば、どこに何を作っても良い。シンボルとしては萬代橋もある。1つのアイデアとして、新潟をラムサール都市にし、都市全体の魅力として発信する。
G	女性	30代	上大川前通	必要性を感じられない。造るのであれば、待ち合わせ的な、スポーツ的な物であればよい。世界遺産等を踏まえたような物を造るのは、無理ではないか。
H	女性	50代	見方町	新たなシンボルは不要。在る物で新潟の良い所を見つめ直す。見て分かる物ではなくても、充分魅力ある物がある。
I	男性	40代	関屋田町	シンボルは歴史がブランドを作っていく。シンボルとして自然になり得ている。新しくシンボルを造るより、「そもそも私達のシンボルとは何か？」ということ、いろんな角度から議論しないと。新たにつくことに違和感がある。新潟は素材が良く、人の良さや、形がない物、無形の物が非常にある。それを形にするシンボルがあればいいと思う。新潟市のパンフレットの表紙を見て、いつも思うことがある。住んでいるから萬代橋だと分かるが、他の地方都市でも同じかもしれないと思う。例えば、秋田県という人がいるかもしれない。富山県と言われても分からない。そこをテーマとしてあげたい。
J	男性	30代	秣川岸町	基本的には不要。歴史の背景や、現在進行形でファンがいれば、あっても悪くはない。例を挙げると、1万6千人位しか住んでいない町あり、そこを舞台にしたアニメが2013年に放映された。その翌年2013年から2014年の間に、1万6千人の町に観光客が15万人来た。そういうものを含めると、シンボルを建てるというよりも、何か在る物で作ったり、アニメ等にしたりした方が、大きな経済効果を得られるのではないか。
K	女性	50代	西大畑町	100年後の世界遺産、そこまでの事を考えているなら、無理だろう。他の案と比べると、予算が採れれば、その年だけで済むので、待ち合わせの場所になったりするぐらいの物であれば良い。
L	男性	30代	沼垂東	全く必要性が無い。作り出す物ではない。新潟市のシンボルとして何かあるかと言うと、萬代橋や、あんなによい角田山がそびえている。ある物を活かしていかなければいけない。
M	女性	20代	親松	新潟のシンボルとして、何がよいというのは思いつかない。建てるのにお金が掛かる。場所はどうするかといった問題もある。形のない物をシンボルにする事に力を入れた方が良いと思う。
N	女性	20代	本町通12番町	物としてのシンボルを造るのは、良いイメージを抱かない。新潟は食べ物だったり、文化だったり、良い所がたくさんある。そういった物を活かして、形のないシンボルでも世界遺産的な魅力として出来てくる。そちらにもっと力を入れていった方がいい。わざわざ物でなくても、立派な物がたくさんある。
O	女性	20代	女池	シンボルと言われると、朱鷺や縄文土器等、安直な物しか思いつかない。例えばマンガ家がたくさんいるので、マンガの像等を押し出すのもいい。古町のドカベン像も、ちょっとしたブームになっていた。
P	男性	20代	船場町	新潟にはこれといったシンボルがない。東京なら「東京タワー」とか。パッと見て分かる物が新潟には無い。みんなが見て「これが新潟だ」と思われるシンボルはあったらいいと思う。

	性別	年代	居住地	コメント
Q	男性	20代	二葉町	新しく造るというのは、お金も掛かるし、維持費も掛かる。今ある物をベースに、そこにプラスアルファして、それを売りにして、シンボル・ブランド化していくのが一番いい。既存の物でシンボルとしては、ドカベン像。成り得る可能性としては、ビッグスワン等も。そこでワールドカップ、オリンピックを開催する等、将来的にあれば、海外からもたくさん来る。そこにビッグスワンがあるだけでなく、そういった物が開催された時に、周りにプラスアルファする等。
R	男性	20代	高志	崇拜するシンボルというのは、今建てたところで、あまり影響力はない。今ある既存の、新潟の元々あるドカベン像等をPRしていけばいい。新潟はアニメ王国。ロボット等のモニュメントが鳥屋野潟の南部にあると、通った時に目に入り、インパクトがあって良い。
S	女性	40代	関屋大川前	中途半端に造るのであれば、新しい物はいらない。アメリカの「自由の女神」というのが、あまりにも想像がつかない。萬代橋や新潟まつりに絡めて、もっとアピールしていけば良い。
T	女性	40代	窪田町	新しい物をつくることには反対。レインボータワーと萬代橋をもっと仰々しく奉って、もっとアピール。他県や外国の方にも来て頂いて、観光の収入を得たら良い。
U	女性	40代	万代	新しい物を造ることは、どうかと思う。人が集まるところは公園等、何もなくて魅力でもある。萬代橋は新潟のシンボル。やすらぎ堤も整ってきれい。そういったところで良い。大きい物を造って観光客を誘致しても、住んでいる人がそれを魅力的に感じなければ、造る事に意味はない。
V	女性	40代	東大通	レインボータワーは新潟のシンボルだと思う。新しい物を造ったとして、それが根付くまでに時間もお金も掛かるし、愛着もない。私が最近良いと思っているのは、萬代橋。萬代橋にプロジェクションマッピングをするイベント等があると、若い子が見に行ったりしている。人を惹きつける力がある。そういった事に力を入れて、毎晩とは言わないが、何時と何時になったら萬代橋が光る、というようにすると良い。萬代橋はもう新潟のシンボル。
W	女性	30代	下大川前通	新しい物をつくることは望んでいない。今ある、埋もれている物の中から、何か良い物がないかを見出すことができないか。新しい物をつくるという、付け焼刃的なシンボルは望まない。一旦クリアにするとか、スッキリさせると本当に必要な物が見えて来る。何だかんだと新しい物をつくるよりは、一旦立ち止まって見てみるのが大切。私たちはどうやってアピールしようか、という事で、SNS等を非常に活発に使う。「お金が無くてもできる」と確信を持った部分がある。お金が無くても頑張ってアピールしようと思えば出来る。素敵なネーミングや、素敵なストーリーを組み立てるとか、そういった事で広報ができる。ぜひお金をかけずに広報するという事をしてほしい。
X	女性	30代	鏡西	新しい物ではなく、今ある物を活用してもらいたい。レインボータワーでいい。直して再起動してもらった方が絶対良い。新潟市と言えばレインボータワーがあるって想像が出来る。連想が行き届く物。自由の女神までは行かないが、新潟に住んでいたら、新潟のシンボルでレインボータワーを想像する。レインボータワーを活用しないのは何故かと思った。

(4)おばあちゃんの原宿的な街づくりや『市場』を復活しよう

『各世代が楽しめる街づくりを期待』 『個性的な魅力あるお店でブランド力を高め差別化』

古町や本町等、まちなかの活性化には、高齢者だけでなく、子どもや若者、子育て世代等、各世代が楽しめるまちづくりを期待している。子どもや若者が楽しめるまちづくりをすることで、古町や本町で遊んだ経験が、成長してからも親しみを持つ街として来街する効果につながると感じている。

「ここを知っていると格好いい」、「お洒落」、といった魅力的なお店が今もある。空き店舗へオリジナルショップやチャレンジショップを誘致する、お客様のニーズに応えるお店にする等、さらに個性的な魅力あるお店が立ち並ぶことで、古町や本町等をブランド化し、万代エリアや他の商業地区との差別化にもつながると考えられる。「写真を撮ってツイッターにあげる等、周りの友達がしている。その時の景色が大事」と意見があるように、景観が魅力的になることで、若者がSNSで発信・拡散することにより、PR効果も期待できる。

古町や本町に来街するにあたり、公共交通の利便性・連結性や駐車場の確保等、交通インフラの整備が課題として挙げられた。

『市場』の復活については、現在でも出店者に高齢者が多く、年々減少している。「現状は高齢者の小遣い稼ぎ」と意見があり、小遣い稼ぎ程度では経営が難しく、出店者を増やすためには、来街者を増やす必要があると考えられる。本町の白龍大権現等への参拝者を増やす、といったアイデアも挙げられた。白龍大権現は、「金」の神であり、「NGT48がCDを発売する時には、ここに参拝する」といった仕掛け等により、参拝者＝来街者が増えることが期待できるものと思われる。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	「おばあちゃんの原宿」は、一番斬新的な物を売っている所もある。古町界限を「おばあちゃんの原宿的な市場」にしようとする、今のままでは難しい。人が来ないからということではなく、魅力的なお店をもっと増やす事が、「おばあちゃんの原宿」になるのではないか。「おばあちゃんの原宿」に行くと、若い人も結構いる。若者も呼び込める街づくりをして欲しい。
B	女性	60代	網川原	そこに行きたいという気持ちになるような物を考えていかなければならない。行きたいと思う商店街を作り上げていけば良い。
C	男性	60代	西湊町通	下本町では、農家の野菜を売る露店が年々減ってきている。今来ている高齢者が動けなくなれば、もうそのお店はなくなる。若い人が商売として出来ればいいが、現状は高齢者の小遣い稼ぎ。お年寄りが集まる場所が必要だと思うが、「おばあちゃんの原宿的な街づくり」や『市場』の復活が必要かは疑問。早川堀が再現され、当初は散策する夫婦連れやグループがいたが、去年あたりからは大幅に減っている。今の距離だけでは、一回見れば充分となる。やるならもっと思い切って、西堀、東堀の「堀」へ繋げ、四季を通じて年に何回もイベント等をしてほしい。そうすれば、興味が沸き、見に来てくれるのではないか。そうなれば継続性がある。

	性別	年代	居住地	コメント
D	男性	60代	神道寺	昔の古町は飲み屋街、本町は市場、上大川前は問屋街と、商業的な棲み分けがあった。5番町、6番町は市場の町に再生できるのではないか。下の方は近くの人中心、上の方は、バスに乗って来て、本町を周り、丸大に寄って帰るとするのが、30年代、40年代、50年代初めくらいまでのコース。それを回帰させ、復活させる為に、ここにシンボルが登場すべき。上の方は本町の5番町、6番町辺りにあったお宮さま(白龍大権現)、下の方は金毘羅様や10番町の秋葉神社等をシンボライズする。日に1度、週に1度でもお参りするような物があればよい。度重なる大火と新潟地震で街が変貌してしまったのは止むを得ないが、旧市役所辺りにあったであろう新潟奉行所を、ジオラマか何かでも作ってほしい。
E	男性	60代	女池	市場は、今の本町をもっと活性化すれば良い。以前の古町のように、お店に住みながら商売していた人達がいなくていいので、貸し出すことができるかもしれない。高齢者が歩いて買い物ができる、ということになると、古町を核にした、西堀。出来るかは分からないが、堀と柳、屋台街のような物を中心にして。女性の目線として妻に聞いたところ、本町や古町に行く回数は減っているとのこと。減った理由はバスの乗り換えの問題。高齢者が集まる、やさしいまちづくりの一環としてだと思いが、何とかしてほしい。
F	男性	60代	西区大学南	長浜に黒壁というものがあり、閑散とした街だったが200万人も訪れるようになった。そこには野菜工房、おかず工房、リサイクル工房、井戸端道場等があり、お年寄り向けにお年寄りがサービスするような拠点をまちなかに作る、ということ自分達が出資した団体でやっている。プラチナカードという回数券もあるそうだ。長野県には小川の庄という「おやき」で有名な所がある。おばあちゃん達が自分で通える所で作り、それを若い人が売り、年商3億か6億稼いでいるという。お金のやりとりだけの商業では大変なので、古町や下町に「生産が見える商店」があった方がよい。そこで作っているのを見て買った方が体験もでき、餅をついている音が聞こえたり、味付けのリクエストもできたり。そういった新しいスタイルでないと難しい。新潟の食は、一年中発信性がある。
G	女性	30代	上大川前通	家が本町の近くなので、よく行く。本町の市場を珍しいと感じる人が結構いるようで、写真を撮る観光客がいる。そのような良いところを広げていけたら良い。市場にもう少し活気をもたせる等。昔はもっと店があった。種類も数も、もう少しズラッと両側にあればおもしろいと、日々思ってる。
H	女性	50代	見方町	年齢の幅がある人たちが、ゆったりできる感じが欲しい。交通の便や、色々な物が不便。本町を見ていると、休憩できる場所もなく、お年寄りの方が通路の様な所に座ったりしている。ワイワイお話好きみたいな風景があるにも関わらず、緑地帯もそうだし、休憩所もそう。車の利便性等も含めて不足していて、市場の活気も薄らいでいる感じがする。アーケードがあり、天候に左右されないが、逆に暗いイメージ。もう少しアーケードを取り除いたら、二階から見ると景色等、何か違うのではないかと。風景や街の感じ等、違うものが映ってもよい。
I	男性	40代	関屋田町	この古き良き古町、本町、西堀、万代地区等、味わい深い。良くなるとよい。若い方々や、新潟でない方だと、あの古町の感覚が無い。おじいちゃんおばあちゃんの町というのは、一つの切り口として有り。
J	男性	30代	秣川岸町	焦点をおじいちゃんおばあちゃんだけにあてるのではなく、高齢者と子育て世代にあてた方がよい。「楽市楽座」とは、規制緩和と減免、免税という意味があるらしい。こういう所で、高齢者にも「子育てパスポート」の様な会員カードが配布されたらよいのではないかと。下本町等で、子どもを連れて買い物に行くと、おじいちゃんおばあちゃんの世代はとても可愛がってくれる。共存は可能。昔の古町というのは難しい。堀があった理由があったと思う。東堀、西堀に堀を再復活というのは難しい。街というものは、それぞれの民間の経営者が本当に頑張り、魅力を出さないと、人は呼べない。自分の街の灯を消さないように、がんばって行けたらというのが、一番強い思い。

	性別	年代	居住地	コメント
K	女性	50代	西大畑町	自分は「新潟へ行く＝古町へ行く」という世代。今の若い子達が古町を知らない。古町はもうほとんど素通りしてしまう所。本当に淋しい。「あの古町がなくなった」という感覚がある。活気を戻してほしい。子どもの頃に古町へ行くのが楽しみだった。今、古町に子どもが楽しめるところが無い。お店もどんどん無くなってきた。交通の便が色々と難しくなり、本町に BRT が停まる本数が少ない。古町にしても、本町にしても、「おばあちゃんの～」とうたわれても、実際におばあちゃんやおじいちゃんが行けない状態になっている。
L	男性	30代	沼垂東	生活スタイルが変わり、若い人がどこへ行っているかと言えば、ジャスコ。万代、ジャスコがメインで、車で郊外へ出て、大きな施設に行く。子どもの頃、古町がおもしろいと感じたのは、三越があり、映画館があり、食べる所もあり、イカスキがあり、と中心地に色々な行く所があった。今は大型商業施設に全て整っている。ヨーロッパや北欧の様に大胆な規制、大型商業施設が出来ないような事もしていかなければ、まちなかに人が戻ってこない。巣鴨に行くと、おばあちゃん達だけでなく、若い人達もいる。実際に住んでいる。そこが良い所。住んでいる人も行く、観光客も行くという循環がないと難しい。古町・本町も、実際に住んでいる人が行く、そこに定住する。住む人がいいとなれば、観光客も呼べる。こういう循環を作らないといけない。
M	女性	20代	親松	昔はウイズビルやラフォーレがあり、古町の方が万代よりも賑わっていた。ちょうど自分が買い物に行っていた時期。古町が大好きだった。でも、どんどん万代に取られて、今は古町のウイズビルも駐車場になってしまった。淋しい。でも、取られた分、古町に空いている所がある。万代よりも低予算で、格安で、お店を誘致する。個性的な人のお店、器屋、アウトドア系のお店等、個性的なお店やお洒落なお店が多いので、色々なお店があったら、是非行ってみたい。買い物がしたい時、大和の跡地やラフォーレ跡地に、ちょっと子どもを預けられるような所があればいい。子どもが遊ぶ所。ラフォーレの5階にあったが、駐車場代が掛かる。全然現実味はないが、例えば人力車や、上古町の方にベロタクシーというのが一時期あった。特殊なイベントか何かで、期間限定等であれば、ちょっと記念に乗ってみたいと思う。そこで写真を撮って SNS にあげるとか。
N	女性	20代	本町通 12 番町	古町には個性的な物が多い。みんなと一緒にいいとか、安い方がいいとか、ここ最近流行っていた。段々そうではなく、個性的な物や古くからの物を大事にしていけないといけないという雰囲気が出てきたと思う。古町の小路や、小路に街歩きの目印でグッドデザイン賞を受賞した物がたっている等、上フルが地域一体となってロゴをつけて盛り上げようとしている。若者と、昔からそこに住んでいる方たちが融合して一緒に企画していたら、個性的で古町ならではの盛り上げ方ができる。若い人だけで盛り上がりながらも、昔からいる人たちがあまりいい顔をしなかったり、衝突になったりする。どちらが良いではなくて、お互いに意見交換をしたら、もっと盛り上げていきやすい。大和の跡地やラフォーレ跡地に、イオンの様な物があったら、街に人が来る。イオンと何が違うかは、駐車場の料金。無料の駐車場と共に、飲食店でも、遊ぶ場所でも、子どもを預けられる場所でも、何でもよい。無料の駐車場ができれば、1 個あるだけでも全然違う。
O	女性	20代	女池	古町へはバス 1 本で行けなくなってから、行かない。車で行くと、駐車料金が安い。目的がないと行かない。バス1本で行けた時代は行っていた。目的はショッピング。まだラフォーレがあった時代。それも無くなってしまった。三越くらいしか行かない。車での移動が多くなっているのでもう少し駐車場料金が安いと行きたくなる。親から、飲みに行くとなれば古町だった、という話を聞いている。私はあまりそういうイメージがない。古町は帰りが大変なので、駅前や万代で済ませてしまう。交通の便が良ければ、おいしいお店はたくさんある。大和の跡地やラフォーレ跡地に NGT が入れれば良かった。

	性別	年代	居住地	コメント
P	男性	20代	船場町	住まいが古町付近。歩いて行けるというのは周りに恵まれていると最近感じている。古町がすごいと思うのは、チェーン店ではなく個人個人のお店。人と差をつけるなら、古町なのかと思う。服や食べ物屋で、「ここを知っていると格好いい」、「お洒落」という、古町には魅力ある店があるので、期待している。若者の視点で、お店も景観を良くしていく。街並み等を撮って「ここに来たよ」とSNSで発信した時に、きれいだったら「ここはどこ？」となる。景観づくりに力を入れていくべき。写真を撮ってツイッターにあげる等、周りの友達がしている。その時の景色が大事。大和の跡地やラフォーレ跡地に、お年寄りから若者が喜ぶ施設、魅力ある食べ物屋さんを入れていくべきかと思う。それもあるべくチェーン店でなく。「新潟は背伸びをしている」感覚がある。東京の真似をしてもダメ。新潟の良さを活かすには、歴史ある良い部分を残しながら、街の開発を進めていくべき。沼垂テラスに何度か足を運んだ。沼垂テラスは昔の威厳を残しつつ開発をして商店街の大賞をとった。古町もやれば出来る。色々な問題はありますが、新潟の良さを残しつつ街づくりを進めていくべき。
Q	男性	20代	二葉町	本町まで近く、歩いて10～15分位。新潟駅や万代周辺では飲まず、ほとんど古町でよく飲み歩いたりしている。チェーン店が少なく、店の一つ一つの店主の温かさというのが特徴で気に入っている。古町や本町の若者向けのお店が、少しずつ減ってきている。だからと言って、活性化に向けて万代シティや東京等の真似はする必要がない。若者文化は万代に譲って、古町や本町は京都のような街づくり。昔は堀等があったように、景観で勝負。そういった事がいいと思う。実際に堀があったのは見たことないが、西大畑公園が近くにあり、面影のようなものが今ある。堀とかあったら「いいかなあ」と思う。船が通るレベルであると、ちょっといい。萬代橋より向こうにコンサートやLIVEをやる場所がいっぱいあるが、古町はない。古町でLIVE会場があればいい。
R	男性	20代	高志	古町は、お洒落で、チェーン店にはあまり無い独特の雰囲気を持つお店が多い。どこにでもある、ではなく、ここにしか無い。それを前面に押し出して、「ここに行くしかない」という気持ちに向けさせる。ブランド化をしていったらいい。
S	女性	40代	関屋大川前	おばあちゃんの前宿の街づくりといった時に、パッと本町が思い浮かんだ。本町に常にお店が出ている。それを古町のモールまで足が伸ばせるように。若い人ももっと来るように。八百屋の野菜やお魚だけではなく、子どもが行って楽しいような事を定期的に。毎月第〇土日とか決めて。古町や本町の周辺でやるといいなと思ったが、駐車場の問題が出る。パッと行ってすぐ停めて行けるには、やはり駐車場。南のイオンに行ってしまう。
T	女性	40代	窪田町	古町界隈に住んでいるので、活性化してくれる事を望んでいる。お年寄りになればなるほど足腰が弱る。高齢者が歩いて買い物できるとなったら、あの界隈の人しか使えない。私は車椅子を押して利用者さんをお買い物に連れて行く、という仕事をしている。古町へ行こうとすると、とても不便。雨に当たらないようにローサから三越に行こうとすると、エレベーターが遠いところにしかない。回って行かなければいけない。そういった障害をお持ちの方や、これから増える車椅子の方が動きやすい道などを整えて欲しい。郊外からのお年寄りの集客も望むのであれば、車が楽に止められるようにする。乱暴な意見だが、一旦更地にして、そこから組み立てたら一貫性のある街づくりというのができる。北光社で行った地域の銘品を集めるお店も、良い案だとは思いますが、中途半端。敷地の大きさも、もっと大掛かりな、駐車場も整えた上で造れたら良い。

	性別	年代	居住地	コメント
U	女性	40代	万代	本町の方へはたまに行く。売っている魚も、本町は本町で良いなと思う。ただ界限全体を見ると魅力的ではない。イメージもそうだし、まとまり感がない。出来ればターゲットを高齢者に絞らない方が良い。人をたくさん集めるには、あの界限だけではなくて、もっと他から来た方が良い。新潟駅から本町へ来るとすると、車を運転して来るか、バス。バスだと200円掛かる。高いと思う。買い物で集客をしたいなら、公共交通機関のバス代を100円まで値下げするとか、もっと頻繁に行こうと思えるような環境を整えないと難しい。今は行こうとも思わないし、行きにくい。今は本町にしかない魅力がない。本町に行くなら「ピア万代」でいい。
V	女性	40代	東大通	おじいさん、おばあさん達を誘致するとなると、端から端まで歩くと本町は長い。もっとこじんまりしていた方が良い。あれだけの道幅があり、長さもある所にお店が抜け間なくある、というのは大都会じゃないと。もう少しコンパクト、デバ地下くらいの大きさ。それを道で再現するくらいしか、おじいちゃんおばあちゃんに関しては無い。もったいないと思うのは地下のローサ。新潟は天気が悪い事が多い。雨が降ろうが雪が降ろうが地下街は関係なくて、夏は涼しい。余所の観光地へ行くと、賑わっている。新潟だけが、あんな感じでもったいない。階段だけではなくて、エスカレーター等をつける。おじいさんおばあさんが行きやすいようにしたら良い。
W	女性	30代	下大川前通	古町、本町、西堀などの復元計画と聞くと、課題に上るだけでもこの地域はいいなと思う。沼垂なんて、誰にも、箸にも棒にもという所。逆に自分たちで何とかしようというパワーが出た。みんな「青空市場」とか好き。解放感があって、朝早く出かけるというのは、みんな好き。ターゲット層が決まっているかという、そうでもなくて、沼垂テラスのイベントに関しては、若いも若きもベトナムまで喜んでくれる。定期的に復活するというのはとても良いと思う。アーケードのせいか、古町や本町は暗いイメージ。新潟はそれがあった方が良くという発想なのだろうが、ある地域ではアーケードを取り払ったら、人が戻ってきた事例もある。でも、そのアーケードがあることで、雨天も自転車で走りやすいとか、吹雪とかは、助かったなあという思いもあるので、難しい。
X	女性	30代	鏡西	この辺は、自分が学生の時には、お店がたくさんあったイメージ。どんどん、どんどんお店が閉まっている。どんどん、どんどんシャッター街的な感じになってきている。私が生まれた街では、アーケードが老朽化したことで取っ払ったら、暗いイメージがパッと明るくなった。それも良いと思う。高齢者だけにとどまらず、年齢層は小さい子までを対象にするべき。サブカルチャー的な問題。高齢者がかわいいと思っている物は、中高生もかわいいと思っている、と見聞きする。ここは共存させていくべき。お年寄りにもっと頑張ってもら。頑張りたいお年寄りはけっこういる。サブカルチャーとリンクさせたような街づくりも良いと思う。

(5) ソーシャルビジネスの事業計画とその支援事業のプロジェクトを立ち上げよう

『高齢者による子育てサポートに期待』 『マッチングの仕組みづくり、行政による信頼性の担保』

「ソーシャルビジネス」という言葉や意味を知っている人はまだ少ないが、参加への意識は決して低くない。「自分が協力できる場合」や「自分が困っている場合」に参加意識はあるものの、「地域のサポート等に参加したい、手助けしたいと思うが、どこでどうすればよいのか分からない」と答えている。情報を入手できるようにし、マッチングするための仕組みづくりが求められている。仕組みづくりにおいては、行政の適切な管理・運営・監督による信頼性の担保が必要と考えられる。

高齢者の活躍としても期待されており、見守りや体験教室等、子どもの学習の場や子育てサポートとしての支援が期待されている。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	少子高齢化で、今新潟市だと、年配の手が空いている方が、子育て隊というものをしている。それをビジネス化したらどうか？今ボランティアに関わっている人達を、もっと組織を増やし、人数を増やしてビジネス化する時に、プラスとマイナスの両面がある。それを明確にしないと、後でズレが生じてくる。実際、沼垂の方で介護施設を地域コミュニティでビジネスとしてやっている。
B	女性	60代	網川原	コミュニティとか、そういった組織が必要となってくる。今現在、コミュニティで高齢者が子どもを集めてやっているというのもある。そういう所から地道にやっていくのがよいと思う。
C	男性	60代	西湊町通	ソーシャルビジネスという言葉自体、馴染みがなく、考えてもピンと来ない。少子高齢化、育児の部分だけみると、高齢者において、「保育所が足りない」とか、「子どもを預かってもらう所がない」といった問題解決に繋げる事が出来ればよい。ただ、子どもを預けたい人と、手助けをしたい高齢者がいる地域が離れている気がする。それをいかに繋げていけるかがポイント。
D	男性	60代	神道寺	このまちづくり計画の中では、異質な、種類の違うテーマ。計画案の中で、組織づくりや、人のマネジメント・関わりが出て来る上で、当然ソーシャルビジネスが絡んでくることもある。そういうものを絡める組織づくりにすれば、ソーシャルビジネスは進展していく。他の案と同じに並べられると、答えはちょっと出ない。
E	男性	60代	女池	東区に「こども食堂」という、ほとんどボランティアで、食事を出している所がある。そういう所を広げて、高齢者と子どもとのふれあいの場や、若いママさん同士の場とする。ボランティア的な場所だけ提供してもらい、近くの農家の人達から物を持ち寄ってという事から広げていくことは可能で大事。

	性別	年代	居住地	コメント
F	男性	60代	西区大学南	事業案 6(鳥屋野潟の環境保護と観光事業の～)と合わせ、ソーシャルビジネスとして鳥屋野潟の復活。例えば子育てであれば、全国から中古カメラを集め、修繕した子ども達を優先して乗せる等。高齢者であれば、笑顔でお茶を飲みながら、子ども達を見守る場所を作る等。鳥屋野潟を復活させるという事と繋げて行けるのではないか。最終的には新潟らしい暮らし方、ゆったりとした水辺ライフを提供し、みんなで稼いで、潟を復旧・復活させる。利益を潟の修設にまわす等、そういった形での大きなソーシャルビジネスとして、官民一体でやっていきたい。2人乗り自転車や2人乗りカメラ、建物や空き家等をできるだけ共営型にすること等を考えている。そのためには、ボートレースやカメラレースの国際大会、世界大会が出来る場所にする。そのような場所にできれば、本当の意味でのソーシャルビジネスになる。
G	女性	30代	上大川前通	上越に住んでいた時、月に1回位、親子の遊び場みたいな感じで行っていた所が、高齢者の方が見てくれていた。もちろん無料。高齢者の方も「元気になる」という事を言っていた。子どもが折り紙や手作りの物で遊べる所がそこだけだった。新潟に戻って来たら、そのような場が全くなかった。ので、あるとよい。
H	女性	50代	見方町	子育てから離れて、地域のサポート等に参加したい、手助けしたいと思うが、どこでどうすればよいのか分からない。高齢者は見た目で見分けるが、障害者等はプライバシー的な事もあり、あまり目にする機会がない。結局、時間があっても、手短なところでしか参加できない。支援内容が具体的に分かる様な伝達があればよい。同じような考えで賛同する、余裕がある人や、時間がある人がたくさんいると思う。
I	男性	40代	関屋田町	子ども達の遊ぶ場を小学校での地域クラブ活動でやったりしている。自然と遊ぶ機会が無く、お金を払って遊ぶ機会が多い。小さい頃に野遊び体験をしていないと、大人になってから、神経が育たなくなる。そういう子どもたちがいて、本当に可哀想。そういう子ども達がたくさん遊べるような環境を作りたいが、塾のお金等、色々なお金が掛かる。遊びやすスポーツは後回しになる。自分の経験として、それをサポートする人を募った。単純に協賛やスポンサーではなく、例えばサッカーのこのシューズに支援したい、このテキストに支援したい等、具体性のあるあらゆるメニューを作り、企業や個人会員を募集した。それをチケットやクーポンにして渡す、顔の見える支援。そして、サポートを受けた人からの感謝の気持ちや言葉を、支援してくれた方に返す、という事をしてきた。心のつながりという意味でも非常に良かった。そういうもので、この様な活動ができれば良い。
J	男性	30代	秣川岸町	困っている人がどの位いるか等が分からない。例えば保育園等が、この辺りにもう少しあったらいいと思うくらい。高齢者が子育てで活躍できる場になると、とても助かる。保育園は時間制限があるので、父親母親の就業時間に合わせるのがとても難しい。遅くまで保育してくれたり、朝早い時間から保育してくれたり、という施設があれば、とても使いやすい。待機児童もいない訳ではないので、あれば助かる。
K	女性	50代	西大畑町	折り紙等、高齢者が支援するというのは学校単位で行われていると聞いた。小さな点ではそれなりに何かがあるが、そこと関係のない人に情報は届かない。情報発信等で点が繋がれば、違う角度で見えていく。
L	男性	30代	沼垂東	このソーシャルビジネスのプランからすると、計画案 11(若い世代の結婚・出産・子育て～)、計画案 12(高齢者が安心して暮らせる～)と繋がっている。まちなかに公設の無料の保育所つくりを進めようというのは、非常によい。実際に今も古町等にある。行政でもっと充実させ、広報していけばよい。利潤を追求しないと、採算性の問題が出て来る。官と民、強い協力なくしては出来ない。行政で一生懸命にしてもらわないといけない。

	性別	年代	居住地	コメント
M	女性	20代	親松	障害者の支援として、知人が「KORO(コロ)」というところで、授産施設で作った物を買っている。お金にし、社会と繋がるということをしている。授産施設も何か所もあり、色々作っても、偏見があるのか売れない。「KORO」では、お洒落にし、ブランド化して、いろんなイベントに出店して売っている。障害があるということ、偏見ではなく、ブランドにする事をしていけたらいい。アイデア1つだと思う。
N	女性	20代	本町通 12 番町	周りに母子家庭の人が多く、子どもを親に預けられない時、家に置いていくのが不安で、「誰にも預けられない」という話を聞いている。託児所などはお金が掛かるから使えづらいと。もう少し良い方法がないのかなと思う。
O	女性	20代	女池	今の時代は、「知らない人と話さな」という教育をしている。自分が小学生の時には、近所の農家の人に来てくれて、一緒に田植えや農作業をして交流があった。その人が困っていたら、助けようかなという気持ちを持った。もっと地域の人と触れ合わせることで、知らない人ではなく、「地域の人」という認識を根付かせ、声が掛けやすくなるのではないかと。高齢者の方が手助けできる側になれる。人生の先輩なので、いろいろと教えてもらえることがある。田植えをした時に「楽しいな」と思ったので、みんなでしたら、誰かしら農業へ行ってくれるのではないかなという思いがある。
P	男性	20代	船場町	今されている事で、事足りている。高齢者で体が悪くなってくると買い物に困難になり、ネットやスーパーの宅配サービスが役に立っていると聞く。
Q	男性	20代	二葉町	案としては、訪問販売、スーパーで買い物後の配達。主に移動系。介護のデイサービスや通所利用も。
S	女性	40代	関屋大川前	ソーシャルビジネス的な事が、生協等、時々チラシで入ってくる。「誰かを助けたい」人が何時から何時まで出来ますと登録する。そこに「助けてほしい人」を紹介するようなもの。
W	女性	30代	下大川前通	私たちは、商店街にある「るるキッチン」というお惣菜のお店で、障害者施設等で作られているクッキーやお菓子やパン等を取り扱っている。ソーシャルビジネスとしてのつながりがある。イベントの時も、施設の方たちが絵を展示するといった事もしている。イベントとつなげて一緒にしている実情がある。絵を描いても、字を書いても、とても芸術的。見ごたえもあって非常に評判が良い。お菓子やパンも非常においしい。造り手さんも誠実にしているので、評判が良く、お客様が買ってください。

(6) 鳥屋野潟の環境保護と観光事業の両面を有する

自然共生型の市民の憩いの拠点をつくらう

『きれいで安心・安全なイメージへ改善が必要』

鳥屋野潟の再開発に対する期待は大きい。遊園拠点とする上で、水質改善をはじめとした景観の整備・保護に対する意見が多い。水質改善や、鳥屋野潟による恩恵を子どもの頃から教育として取り入れることも重要と考えられている。

周辺の整備としては道路、景観に対する課題が上がった。道路については、周辺道路が狭い事が挙げられた。徒歩や自転車の通行で「危険な道路」と認識されている。景観について、高齢者や女性では、「鳥屋野潟＝モーテル」のイメージが強い。来街者からの見た目を気にする意見もあった。

施設として、歩道や自転車道、ランニングエリアを要望する意見が多い。花火の復活や音楽フェスの開催等、イベント開催を望む意見も挙げられた。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	鳥屋野潟の自然が、本当にもったいない。どんどん行ってもらいたい。やすらぎ堤がきれいになってきたので、次は鳥屋野潟。石川県(木場潟)で成功していることは、新潟県でも出来る。まずはきれいにして、道路を広くし、みんなが安心して花見ができる様にする。黙っていても喫茶店やカフェテラス的な物は出来ている。より人を呼ぶようにするには、周りの清掃。新潟市ではないが、キャンプ用品で世界的に有名な所がある。その会社を誘致し、体験型のキャンプシステム等。新潟には新幹線を造っている会社があるので、鳥屋野潟で小さな電車を走らせ、子ども達が参加したり、鉄道マニアの方を呼んだりする。観光だけでなく、体験することがとても大事。新潟でしか出来ない事が県全体で見たらたくさんあるので、それを集約する。
B	女性	60代	網川原	環境事業では、周りの整備。鳥屋野潟は道路の整備が一番大事。車が通ると、歩行者も自転車も通ることが出来ない。鳥屋野潟は前に比べて水の質等、良くなっているが、景観(モーテル)が問題。市外から来た人からの見た目が良くない。
C	男性	60代	西湊町通	鳥屋野潟はモーテルのイメージ。良い所は桜と花見。ぜひ花火を復活させてもらいたい。阿賀野川の花火に水中花火があるが、鳥屋野潟の水中花火も良かった。
D	男性	60代	神道寺	この近くに住んでいるので、歩くこともあるが、歩くのに危険な所。歩道を作ることが先決。少なくとも桜木町や県立図書館の周辺まで、きちんとした歩道を作ってほしい。権利関係の問題があるが、行政主導で思い切ってやってもらいたい。インフラの整備が進めば、あとはどんどん進む。鳥屋野潟南部があればほど開発され、色々な物が出来ているのに、肝心の正面玄関があれば、という感じ。
E	男性	60代	女池	事業案の中で、鳥屋野潟を一番最優先でやってほしい。やはりインフラの問題。「食育・花育」や「ビックスワン」といった新しい物だけでなく、自然を残し、桜も回復させてほしい。どんどん桜の木が弱っていて、植えられていない。昔は行くのが楽しみだったが、今は車で通ってもやっとな。これが新潟の「潟」で、鳥屋野潟が一番の中心となる所なので、そこから手をつけてほしい。鳥屋野潟を中心とした、新しい近未来含め、将来的な側面からもぜひ活用して頂きたい。

	性別	年代	居住地	コメント
F	男性	60代	西区大学南	信濃川のように高層ビルが建たないように、鳥屋野潟の景観を大事にしていった方がいい。鳥屋野潟は、地元の人が集落ごとに鳥屋野潟百景というのを持っており、自慢できる物である。しじみがいた頃の自然を守れ、と皆が言っている。昭和 20 年代には鳥屋野潟の水を濾して飲用し、昭和 35 年頃には、水を濾す竹筒にウナギがたくさん詰まっていたそうだ。小さなロボットやハイテックロボット等のロボット産業を申し込みたい人が多い。公共事業だけでなく、民間が使える場所を作り、利益を戻すというようなことをしたい。ソーシャルビジネスと合わせ、社会的な問題を解決しながら、鳥屋野潟を復旧・復活させる。子育てであれば、全国から中古カーを集め、修繕した子ども達を優先して乗せるようにする。高齢者であれば、笑顔でお茶を飲みながら、子ども達を見守れる場所を作る。ボートレースやカーレースの国際大会、世界大会が出来るような場所にする。最終的には新潟らしい暮らし方、ゆったりとした水辺ライフを提供する。鳥屋野潟周辺を新潟のシンボリックな住まい場所にしていく。
G	女性	30代	上大川前通	鳥屋野潟の近くに、自然科学館や図書館等の施設がたくさんある。そこをまとめて、何か作ればよい。中心部に島は要らない。そういう事ではなく、今ある物をまとめていく。
H	女性	50代	見方町	鳥屋野潟は、自然教室や市民の集いで、それほど郊外、遠くへ行かずに行ける場所。もう少し手を加えて、みんなが「もっと行きたい」という魅力ある物に発展してもらえたらよい。
I	男性	40代	関屋田町	鳥屋野潟は新潟の財産。色々な会が沢山存在し、活動している。それらの会が1つに団結すること。横の繋がりもこれからつくり上げていく、繋げていく。とにかく団結する。
J	男性	30代	秣川岸町	拠点があれば、人が呼べる。ただ、中途半端な整備では人は来ない。鳥屋野潟が暮らしと密接しているとは思わない。ランニングエリアがあったり、周りの道路自体を無くして、憩いの場と呼べるような、整備を大きくしていく必要がある。
L	男性	30代	沼垂東	県が主導で今後 10 年くらいで、潟を全部整理することなので、これが進めば、よい場所になると感じている。「潟の中心部に島を作りたい」とあるが、環境面でも絶対プラスにならないし、お金も掛かる。一番大事なのは、「鳥屋野潟はこんなに良いものだ」と、下の世代の子達に教育をしていくこと。水質の改善という意味でも教育をしていく事が一番良い。言われなくても、「鳥屋野潟をキレイにしたら、こんなに良い」、「水質が改善されると、こんなに良い事がある」という事を、長い目で教育していく。そこが一番良くする方法。近隣の小学校や中学校、保育園レベルから、鳥屋野潟に親しんで、良い所だと知ってもらう事が、一番近道。それプラス、整備。
M	女性	20代	親松	前に一回ボートに乗りに行ったが、活かされてない。ただの湖。独身の時に乗ったが、子どもを連れて乗りに行ったら「もうやっていません」という事で、残念だった。ボートはとていいなと思った。鳥等も来るので、話題になるような動物が住んでいて、「〇〇ちゃん」とか名前をつけたりすると、「〇〇煎餅」とか「〇〇アイス」とか、そこから広がっていくと思う。何か話題性のあるものが一つあればいい。鳥屋野潟公園はとて広いのに遊具もなく、広さを活かしていない。駐車場も広いのに、いつもガラガラ。散歩するしかイメージがない。例えば大きなトランポリンを置いて、子どもがジャンプしたりできるようにする等。お花見の時には屋台が少なく、行列になっている。もう少し屋台を増やす。

	性別	年代	居住地	コメント
N	女性	20代	本町通 12 番町	鳥屋野潟の周りに桜の木が植えられていて、きれいだと思う。だけど、いまいち花見のスポットとなっていない。それなりに咲いていて、車で通ると、ちょうど桜のアーチの中を通っている感じになり、いいなあと思うが、意外に周りに知られてない。「桜は新潟市内だとやすらぎ堤かなあ」みたいな。全然名所とはなっていない。特にお店が出ている訳でなく、道もそんなに広くないので、通り過ぎるしか出来ない。停まって、そこでピクニックできたらよい。もう少し道を整備して、その時期、盛り上がったらいと思う。
O	女性	20代	女池	近くなのでよく通るが、やはり道が狭い。知る人ぞ知る抜け道、みたいな感じ。もう少し道路を広くして、通りながら鳥屋野潟を眺められるようにしたら、もう少し県内の人に身近になるのかな、と思う。
P	男性	20代	船場町	自然がたくさんあるので、イベントを催していけたら、鳥屋野潟の認知度も上がる。例だと、フジロック等、音楽フェスを新潟の山の方でやっている。鳥屋野潟もそういった事をやって行ったらいい。自然の美しさという魅力もある。イベントがあるとみんな参加する。若者もそういった傾向が高いと聞いたことがある。イベントを通して鳥屋野潟の再開発に取り組んでいけたらいい。個人的な意見では、音楽しか思いつかないが、他にも多分ある。
Q	男性	20代	二葉町	鳥屋野潟は自然が豊かなので、それを活かす。釣りが楽しめるように釣り堀を作ったり、もう少しアクセスがよくなるようにしたり。公園や駐車場をつくり、花見や釣りが楽しめるようにして、夕方には自然を見ながら食事が出るようなレストラン等があったらいい。
R	男性	20代	高志	周りの道を整備するのは、優先順位が高い。ビオパークというのは分からない。(石川県の木場潟と)同じ方式を取り入れる、水質浄化というのは良い。昔はうなぎが採れたらしいが、知らなかった。
S	女性	40代	関屋大川前	ラブホテルのイメージがどうしてもある。鳥屋野体育館に運動に行くためにあの辺を通る。道があまり良くない。桜の時期に車を停めても、歩く場所がない。小さな子どもを連れて散歩をするには、候補から外れる。カフェがあれば、それをめがけて行くし、もうちょっと魅力的な物ができればいい。鳥屋野潟公園があるが、もっと自然に触れ合えるように。水が流れていたり、湖もあるので、観察ができたり。子どもがゴミ拾いをしているのをテレビで見る。もっとすると良い。
T	女性	40代	窪田町	美しい日本の歩きたくなるみち 500 選に選ばれるくらいに、水質の浄化等に取り組んでいってもらいたい。琵琶湖一周のピワイチという自転車の有名なイベントがある。今はマラソンに狙って出ている人もいる。当日の受付を早め、前日から新潟に来てもらい、泊まってもらおう。景観も良くて、走りやすく歩きやすくして、そういったイベントをしたら良い。
U	女性	40代	万代	あんまり鳥屋野潟へは行かないが、ああいっただ場所は珍しい。子どもの学習の場としてあったらいい。ほとりにレストランやカフェがあったら、「行こうかな」と思う。周りの道が細い。
V	女性	40代	東大通	ラブホテルのイメージ。一回結婚式場が出来たりしたかなあと思うくらい。暗い感じがする。鳥屋野潟近辺のランニング仲間は、鳥屋野潟を一周したよというのを、SNS にあげていたりする。桜の時期などはとても良い。一周何キロとか調べて、ランニングコースやウォーキングコースなどにするのも良い。
W	女性	30代	下大川前通	鳥屋野潟のイメージは、とにかく汚い。水が汚いというイメージ。それをきれいにして、周りの自然を活かして環境保護を強く訴えるという事には非常に賛同する。日本の歩きたくなるみち 500 選に選ばれるような所になってほしい。潟というところを活かして、自然を活かすという事に賛同する。

	性別	年代	居住地	コメント
X	女性	30代	鏡西	自転車で通ったり、歩いたりする道がこの中に含まれている。体育館のある辺りをよく通る。あそこは桜がとてもきれい。でも歩くには怖い。歩道を整備して欲しい。子ども達の学習の場はもっとあったら良い。エコスタで走りまわったり出来たら良い。平日とかは空いているので、学校の行事で使うのも良い。

(7) 歩いて暮らせる便利で住みやすい街づくりを計画しよう

『コンパクトシティを実現するには、地域住民の自発が必要』

『交通インフラ、郊外エリアへのケアが課題』

「歩いて暮らせる街」を理想と考えているものの、コンパクトシティに対するイメージは漠然としている。街づくりを計画する上で、行政主導でなく、地域住民の自発が必要との意見が挙がった。

課題として、主に交通インフラの整備が挙げられ、郊外エリアの住民への配慮も求められている。

事業案 2(空き家のリフォーム、空き地、空き家の再開発～)や事業案 11(若い世代の結婚・出産・子育て～)、事業案 12(高齢者が安心して暮らせる～)等、他の事業案や様々な問題と関連付けて考える必要があると考えられている。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	医療、介護、買物を充実させることを考えた時に、中央区の場合、医療と買物は何とかなる。次は介護の問題。介護施設は遠い所にあるので、土地の問題もあるが、それをどう身近に作るか。計画案 11(若い世代の結婚・出産・子育ての～)や計画案 12(高齢者が安心して暮らせる～)にも関わるこの3つをどうやっていくのがキーワード。
B	女性	60代	網川原	コンパクトシティになれば、少しずつ活性化すると思う。そこへ持っていくのに、1コインバスであるとか、そういった事がこれから必要だと思う。
C	男性	60代	西湊町通	このコンパクトシティというものが、小さな単位で数が出来れば、年をとった時に助かるのだろう。ただ実現するののかという疑問。
D	男性	60代	神道寺	人間が歩く距離がきわめて短くなった関係で、このコンパクトシティ。それこそ80年～100年前の、新潟市と言われていた所はコンパクトシティだった。正に新潟島。今は新潟もいくつかのエリアがあり、中央区ですら、いくつかのエリアがある。それを基に計画案 1(まちなかに新潟の銘産品を集めた～)や計画案 2(空き家のリフォーム、空き地、空き家の再開発～)の所で、連環し、路線バスとから合わない形で繋げて行く。1コインで行けるミニバスをいくつかのルートで作っていけば、コンパクトシティは成立すると思う。
E	男性	60代	女池	コンパクトシティというと、単純にコンパクトな塊のイメージ。新潟市8区の特徴を活かした街づくりにつながれば良い。鳥屋野潟を復活して、そういった一画が作れるのではないかと。後はインフラの整備。
F	男性	60代	西区大学南	コンパクトシティについては、外国でも考えられている事で知っている。良いとは思いますが、どうやって実現するか。部分的にでも作ってほしい。実現できたらいい。
G	女性	30代	上大川前通	歩いて暮らせる便利で住みやすいというのは、理想中の理想。
H	女性	50代	見方町	コンパクトシティは理想。
I	男性	40代	関屋田町	コンパクトシティの計画案は、焦点を絞りづらい。広い話になりやすい。切り口を分けて話す機会つくった方がよい。
J	男性	30代	秣川岸町	コンパクトシティになればよい。行政が主体で行うのは、地域ごとの平等性に欠ける。医療、介護、買い物という所に焦点をあてれば、今後もう少し民間もこの辺にあてた経営もしてくると思うので、後付けでなっていく。
K	女性	50代	西大畑町	自分が生活する上で、歩いてそれなりの距離の所に、全ての物が集約しているという意味ではコンパクト。

	性別	年代	居住地	コメント
L	男性	30代	沼垂東	これから日本は、人口減少という意味で、当然コンパクトシティにならざるを得ない。それを誰が選定するか。行政で、「ここを中核都市としてコンパクトシティを作ります」と言った時に、周りの選定されない場所はどうするかという事になる。平等性の確保を行政は非常に重視するので、「ここを切り捨てます」なんて絶対に言えない。住んでいる住民が、ここをこういう風にしたとか、住む人、使う人、外から来てもらう人を重要視して「この町を作っていきます！」としないとイケない。
M	女性	20代	親松	新潟は車社会なので、なかなか難しいと思う。駐車場代等で。京都へ行った時には、自転車を借りて回った。新潟にいと、自転車に乗る必要はないかなと思ってしまう。
N	女性	20代	本町通 12 番町	免許を持っていないので、普段の移動は、全て公共交通機関や自転車、歩くしか選択肢がない。新潟島の下の方に住んでおり、家の近くにバス停がある。そこからバスに乗って古町で乗り換える。バスの本数が、今回の BRT で減ってしまった。乗り換えも増えた。バスに乗ることは、減ったかもしれない。自転車か歩いた方が結局早い。バスが 1 時間に 1 本しかない。行きたい場所によっては乗り換えが増えた。今までなら、古町から近江のあたり、南口の少し向こうまで行こうと思ったら、バスに乗って 1 本だった。どう考えても市役所で乗り換えなければならないと思うと、「バスに乗るのは…」となる。実家が東区で、東区から駅前に出てきて、古町へ行こうとなった時、レンタル自転車があることは分かっている、借りない。レンタル自転車だと、色々見て回れると思ったのは、京都に旅行に行った時。京都は観光名所が色々あり、少し離れていたりもする。お金を払って自転車借りても、全部見て回りたかった。必要に迫られれば、お金は払う。車の方が便利だが、多少大変でも、自転車にしようと思うのかもしれない。今一番便利なのは、車に乗って無料の駐車場のあるイオンに行って買い物をすること。とても簡単なルートで、寒くないし、子ども連れでも大変でない。歩いて移動しようとなった時に、そのハードルを上げてまでしたい事があればする。
O	女性	20代	女池	歩いて買い物に行くことを考えると、新潟は一年を通して、天気が悪かったり、寒かったりすることが多い。屋根があるだけでも気持ちが違う。歩いて買い物という、雨が降っていたり、風が強かったりすると、「うーん」という気持ちになる。屋根一枚あるだけでも、違う。萬代橋を歩く時に風がすごい。現実味はないが、あそこをトンネルみたいにしてしまう。東京等の空港等にある、動く歩道があると、古町、万代も行き来しやすいと思う。市役所前のバス停の待合室の真ん中が、とても風通しが良い。十月の夜に、乗り換え待ちの 20 分で、死人が出るんじゃないか、と思うくらいとても寒かった。ぜひ風が通らないような工夫をしてもらいたい。
P	男性	20代	船場町	今、お年寄りの方が遠方から来られると、車を使わざるを得ない。事故が発生したりすると、ニュースで取り上げられる。歩いて行けるとなると、自転車のレンタル。外国では無料でお洒落な自転車が借りられると聞いた。日本では料金を若干払って借りることが出来るシステムになっている。公共交通機関を使うのも有りだが、古町や万代へ行くならリサイクル自転車を借りて行く、ということがコンパクトシティに近づいているのかなと思う。
Q	男性	20代	二葉町	空き家のリフォームや空き地が多いところに、住んでいる人に移動してもらおう。河渡マーケットシティのような、そこへ行けば何でも揃うみたいな物を、いろんな空き地で少しずつ、小さなマーケットシティをつくる。冬に雪が積もったり、天気が良くなかったりする日が多い。西堀ローサのように、地下に商店街みたいな物をつくる。そこへ行くと何でも揃う、というのをしたら、おもしろい。

	性別	年代	居住地	コメント
R	男性	20代	高志	離れた所にある店や、どこかへ行く為に交通インフラを整備するのではなく、医療・介護・買い物など、どうしても生活に必要な施設が合体した物を、ある程度広い場所に、一つの建物の中に作っていく。特に高齢者の方が多く場所に配置して、高齢者の方が歩いてでも行けるものをつくるといい。
S	女性	40代	関屋大川前	この富山の路面電車という字を見て、「ああ、新潟にもあったなあ」と思った。良かったのに無くなった。そして今連節バス。連節バスは出来たけれど、たくさんの人が乗っているのを見たのは最初の頃だけ。快速になってからは乗っている人が少ない。それがどうにかならないか。
T	女性	40代	窪田町	コンパクトシティをつくる場所によっては、そこから外れた人は全然コンパクトではない。
U	女性	40代	万代	新潟の交通システムは良くない。新しいバスシステムが導入された。ある日突然快速になって、私が乗り降りする所には停まらない。本町も停まらない。新潟→万代シティ→古町→市役所。ラブラの前でたくさんの人が列をつくって待っていても、連結バスに乗る人は少ない。新潟のオフィス街というと、イメージ的に本町辺り。そこに停まらない。乗る人が少なくてバスの中は閑散としている。そのせいで、混んだバスにいつも乗っている状況。せめて本町に停まってくれれば、もっと多くの方が使用できる。その一つをとっても、交通がどうなのかと思う。
V	女性	40代	東大通	コンパクトシティにはとても憧れがある。例えば大阪のかに道楽等は、密度が高くてギュッとそこに色々な物がある。そこでみんな動くから活気があるし人も大勢いる。新潟は広いところに人が点々としている。何をしても事が足りない。私の勤めている会社は仙台と福島にお店があり、仙台と福島という遠いというイメージがある。仙台と福島の店長がお互いに転勤になった時に、引っ越しを待たずに通勤ができると言う。新潟市と上越市くらいの感覚で。新潟はどこに行くにも遠くて、とても不便。コンパクトシティという凝縮して何でも事が足りるような、交通手段に時間をかけずに、歩いて行けるような所から始まり、少し先に行けば県外に出られるような事まで含めて、そんな風になってくれたら良い。電車に乗っても長いし、バスに乗ってもどこへ行くにも遠い。周りはコンビニも少なく、住みづらいつと感じる。思うのは山の手線のように周る交通。バスでも何でも良いが、渋滞しないようなもの。じいさんもばあさんも若い子も乗れるような。その中にいろいろ、コンパクトシティが出来れば良い。
W	女性	30代	下大川前通	まさに自分たちがしている事。「ここへ来れば何でも揃うよ」といったコンパクトシティを目指した街づくりをしているので、非常に賛同する。沼垂地域は駅から近いようで遠く、周りにスーパーもほぼ無い。コンビニと小さなスーパーがあるくらい。買い物弱者、交通弱者の街。それを解消した街をつくることを目指して今取り組んでいるところ。歩いて散歩に来て、コミュニティがあって、人と人が接する場所があるという街づくりを、今私たちが取り組んでいますし、良い事だと思う。ある程度揃えてはいるが、毎日の用が足りているかという、まだまだの部分もあって問題点も多くある。商店街をつくって1年なので、コンパクトシティを目指していますが、今はまだ途中の状態。

(8)各種イベントのリノベーションの有り方を調査・研究する機関を設立しよう

『費用対効果への関心が高く、マーケティング組織への期待度・必要性を感じている』

『情報開示で市民参加によるイベント事業の窓口として』

各種イベントに対する費用対効果等、マーケティング効果への関心は高い。費用対効果を市民へ広く開示することは、イベントの在り方や募金・寄付によるイベント運営等を市民自身が考えるきっかけづくりにもなると捉えられている。歴史や伝統により続くイベントも存在することから、効果の検証において、費用対効果だけでなく、別の視点から効果を検証する必要があるという意見もあった。他にも、「評価にあたっては民間や学生、女性等の意見も取り入れてほしい」、「出展者へマーケティング効果の検証報告がほしい」等の意見があり、マーケティング組織の設立への期待は大きいものと思われる。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	イベントを効率化して、きちんと検討するのはとても必要。しかし、必ず赤字の場面がクローズアップされてしまう。夏の花火や何十年も続く万代バスセンターのジャズフェスティバルを有料にする、青山海岸の夕陽コンサートの料金を値上げする、等となると思う。そうではなく、実際に調査していく中で、たとえ赤字でも、満足度を得るために無料にしなければいけない部分がある。そこで、無料にするための調査・研究という形で実施して頂きたい。
B	女性	60代	網川原	公共イベントがいろいろ行われていて、参加することがある。やはり赤字のことが絡んでくると思う。調査していく事はよいと思う。
C	男性	60代	西湊町通	赤字というのは避けられない部分があるが、イベントごとに募金や寄付という形で、広くアピールしていく事が必要。
D	男性	60代	神道寺	統一化、一本化された組織が無いということが疑問。当然、あって然るべきもの。赤字だから、人が集まらないから、というのはしっかり分析して、テコ入れして行けば出来る。イベントの基本スタンスとして継続していく、人を集めていく事に傾注して、組織化、分析調査、継承の組織を作るべき。
E	男性	60代	女池	急には難しい。市の文化振興財団等がまず核になり、進めて行くのが一番よい。新潟まつりにしても、ラ・フォルジュルネにしても、水と土の芸術祭にしても、広く発信して行くには、継続して行くことが大事。
F	男性	60代	西区大学南	公共の場合と民間の協賛の場合とで異なるが、これからのイベントは、事業者への種まきと考え、きちんと記録して分析することが必要。企業では、CS という社会貢献事業をしており、もっと踏み込んだCSVで企業価値と社会価値を同時に実現している。そういう意味で統一した組織が必要だが、行政内で統一するイメージでは、税金の使い方の統一の話になってしまう。民間や学生、女性が参加したり、学生型イベントにしたり、切り口を変えて評価しないと、利益追求だけでは世の中通用しない。一流企業から、「ぜひ協賛させて下さい」と申し出がある等、そういった方向がよい。もう少し踏み込んだ、新しい事業者の為のイベントの種まきとしても考えてもらいたい。
G	女性	30代	上大川前通	今のイベント全部をまとめてという事だと、調査・研究機関の設立は、とても難しい。

	性別	年代	居住地	コメント
H	女性	50代	見方町	イベントの予算と、参加している人口の割合が比例しているかや、予算の配分をどこで検討されているのかも分かっていない。費用を掛けてイベントをしているのに、ただやればよいという古い考えでいるのはどうなのか。イベントと名が付くことから、進化して行ってもよい。その辺の研究の要素として、という捉え方はある。
I	男性	40代	関屋田町	市の各部署で、それぞれ予算を抱えたイベント事業があり、他の部署は評価を見ない。自分達の部署の中で完結していればそれでいいと言う事。ある団体でも、伝統的に例年続いているので、人も変わっているから、「この予算、この予算」という風な関心事になっている。それが良いか悪いかという議論でも、そこは白、黒でないと思っている。その団体の思惑もあるし、担当部局の思惑もある。まとめる事で良い事もあるが、そうでない場合もある。それぞれの思惑がある中で、意志的に気持ちを通じあおうという感覚は非常によく分かる。一つにまとめることは良いが、何とも言えない。
J	男性	30代	秣川岸町	マーケティング組織の設立はよい。出店者に、「これだけ売上ありました」、「イベントとしてこれだけの黒字になりました」等、費用対効果ははっきり見える様になればよい。一市民として、それぞれのイベントにどれだけの税金が使われているかを知れば、興味が沸く。「これはダメだったんじゃないの」という風に思ったりするのも大事。
K	女性	50代	西大畑町	悪く言えばマンネリ、良く言えば伝統みたいな感じで、イベントにかなりの金額が使われているにも関わらず、その費用対効果はどうなのか。お金が上手に使われているのか？イベントに関わる人達も、「去年お金貰っているんだから、今年も」と、マンネリ化している様であれば、機関の設立は必要。調査・研究することによって、「このイベントは一緒に出来るのではないか」、「もう少し宣伝の仕方を変えよう」等、そういう違う角度で見てくれる人がいればよい。永続的な物でなく、単発でやってみるのもおもしろい。
L	男性	30代	沼垂東	調査・研究する機関は、あった方がいい。イベントを誰が判断するか。赤字だから止めるとなると、多分すべてのイベントが出来ない。
M	女性	20代	親松	イベントが一つあると、みんな行く。土日に暇な人や、家族連れもアンパンマンが来るというだけで、ワァーッと流れる。より良くするには、そういった組織を設立して、色々な方面から模索していったら良い。
N	女性	20代	本町通 12 番町	マーケティング組織の設立に賛成。古町には普段は人が居ないが、「食の陣」や「潟フェス」のイベントの時には、いつもと比べて人が来ていた。それだけ人が来れば、ご飯を食べていこうとか、スーパーで買い物していこうとなり、滞在する時間も増える。組織があることで、このイベントだとういう良さがあったね、というのを総合的に反映していければ、全体的に盛り上がっていく。
O	女性	20代	女池	イベントの機関をつくり、学生を呼び込む。企画から運営までしたら何単位かとれるよ、というのがあれば、参加する人がいるだろうし、人件費が削減できる。大学在籍中に「水と土の芸術祭」で先生が募集していた。無料となると、参加する人が少なかった。単位がとれる、ということにしたら、人件費が削減できると思うし、新潟について考える機会にもなって楽しい。学生には「金」より「単位」。その方が「授業だ」という気持ちで取り組める。
P	男性	20代	船場町	賛成。イベント等が無かったら、息苦しくなってしまう。イベントは一時的な物で、非日常感を味わえる。プラスに働くなら、イベントに参加していくべき。イベントを通して経済的效果や心理的満足が得られるなら、やっていくべき。
Q	男性	20代	二葉町	マーケティング組織の設立をする事によって、人気があるイベントと、そうでないイベントとの格差が分かる。人気がなかったイベントは「今年から無しにしようか」となり、市民から要望が多い別のイベントを開いたりすると、費用対策効果としては良い。マーケティング組織の設立という考えはとても良い。

	性別	年代	居住地	コメント
R	男性	20代	高志	自主的にイベントを開いている団体に声を掛けて、「こうしたらイベントが盛り上がる」というような意見を頂く、交換する場を設ける。経済的効果や心理的効果等の意見を聞けるような、専門家が在籍する機関があればよい。
S	女性	40代	関屋大川前	楽しいイベント等を見逃した時などは、「どこに載っていたの?」となる。もう少し上手な宣伝の仕方などがあると良い。
T	女性	40代	窪田町	調査・研究機関の設立に賛成。民間に色々な面でリサーチしてもらい、次に活かせるような形をとったら良い。
U	女性	40代	万代	効率的になるのなら良い。1つになることによって、細々とした意見が取り入れられないといった事が起こらなければ。効率的で費用が抑えられるので良い。
V	女性	40代	東大通	公共イベントや事業で、誰も興味がなくてどうでもいいような事に予算をつけるのは、もったいない。「酒の陣」も県外からたくさんの方が来ているけれど、意外とみんな分かっていない。何万人も人が来るという事は、いろいろなチャンスがある。古町でもどこでも、それだけの人を、そのまま帰すのはもったいない。もっと宣伝する予算を県や市で出してもいい。成功しているようなイベントでは「新潟総おどり」や「マラソン」等。新潟が良くなるようなイベントには、ガッツリと予算をつけてもらう。何をしているか分からない、役人が儲かるようなイベントには出さないでほしい。きちんとマーケティングする機関があって、納得できる補助金が配分されていれば良いと思う。機関が出来るのであれば是非したら良い。
W	女性	30代	下大川前通	これはアウトソーシングが良い。民間にしっかり第三者に見てもらおう。適正なのかどうかということも、効率的にみてもらうことは良い。コスパ・費用対効果というのは、しっかり見るべき。補助金に頼り過ぎてしまうと、その事業しかりなくなってしまうという事もあるので、バランスよく。行政の力はとても必要。うまくバランスをとって、アウトソーシングできちんと見てもらうことが良い。
X	女性	30代	鏡西	新潟には新潟市を含め、埋もれている良いところがたくさんあるのに、有効活用できていない。住んでいるのに「知らない」という事もある。調査・研究というのであれば、宣伝力を上げるような事が良い。

(9) 鳥屋野潟南部に新潟版『アニメ・ロボット・ランド』をつくろう

『マンガ・アニメや世界規模のイベント開催による観光産業に期待』

新潟の新産業として、ロボット産業や航空産業は適していると感じている。「新潟は、江戸時代終わりから明治、大正、昭和にかけて、造船の町。下には工員もたくさんいた」と、古くからのづくりの街としての基盤があり、きれいな水や空気、広い土地、物流等が揃っている事を要因とした意見が挙がった。

他の産業では、特にマンガ・アニメ産業を活用した観光産業への期待が大きい。新潟は漫画家が多く、アニメでも監督等で活躍している人も輩出していることが要因と考えられる。マンガ・アニメの内容に新潟の名所を盛り込むことや、既存のモニュメントをよりPRする等により、市外や県外、または外国から観光客が増えると感じている。

テーマパーク的なものを造るよりも、イベントの活用、それも世界規模のイベント(世界モーターショーや世界ゲームショー等)を誘致する、といった意見もある。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	新潟市ではないが、キャンプ用品で世界的に有名な所がある。その会社を誘致し、体験型のキャンプシステム等にする。新潟には新幹線を造っている会社があるので、鳥屋野潟で小さな電車を走らせて、子ども達が参加したり、鉄道マニアの方を呼んだりする。観光だけではなく、体験することがとても大事。新潟でしか出来ない事が県全体ではたくさんあるので、それを新潟に集約する。
B	女性	60代	網川原	やる気のある若者が、こういったことをするのは賛成。自然科学館は子どもが集まる。そのような夢と希望のある場所を、集中していく。
C	男性	60代	西湊町通	鳥屋野潟の近くに、自然科学館があり、小規模でも小学生が体験できるような物もある。それを利用して、もう少し大規模な体験型にする。
D	男性	60代	神道寺	新潟は、江戸時代終わりから明治、大正、昭和にかけて、造船の町。下には工員もたくさんいたが、残念ながら工業の町というイメージはなくなってしまった。ロボット産業や航空産業において、空気がきれいな所、広い土地、物を運ぶのに楽な所等、新潟は諸条件をすべて満たしている。色々できる。新潟は物を作るという意味では、なんでも来い、の場所。
E	男性	60代	女池	人口増もしながら、誘致するには良い。場所は鳥屋野潟で、更にアニメ王国でもありマンガもあるので。新潟にふさわしいもので、官民一体となって出来たらよい。時間は掛かると思う。
F	男性	60代	西区大学南	ダイソン社等と共同して、鳥屋野潟の水を浄化するロボットを共同開発する。そのような大きな規模と、子ども達がペットボトルや紙パックで水を浄化する、世界大会のようなコンテストをドッキングさせる。子ども達も楽しみながら一方で教育、一方で産業開発みたいなのが出来たらよい。
G	女性	30代	上大川前通	ロボットメーカーとタイアップというのは、あまりにも飛躍しすぎ。アニメの方がちょこちょこ今あるので、それを活かしていければよい。ただ、マンガ・アニメ産業は、市民はそんなに熱くなっていない。外から来た人と少し温度差を感じる所がある。その辺をなんとかしていけないといけない。
H	女性	50代	見方町	中途半端だと難しい。

	性別	年代	居住地	コメント
I	男性	40代	関屋田町	サッカーではアウェーのサポーターが「酒の陣」に寄る。そういうものを観光事業として活用していければよい。新潟のまちなかで見本市があるとよい。関東でよくある、世界モーターショーや世界ゲームショー等が出来る都市になればよいし、目指したい。新潟出身のサッカー選手が海外に出て活躍する事で、日本地図が新聞に掲載され、ど真ん中に「Niigata」と記事が出る。これを見た瞬間に誇らしくなる。地方に居ながら世界と結びつく事が出来ることも、誇り感の醸成。その意味で、世界規模の見本市が常時出来る様な、都市づくりを経済効果としても考えられる。ドイツのドルトムントという都市が、それでやっている。
J	男性	30代	秣川岸町	ロボットメーカーとタイアップして、ロボット産業の推進と雇用を先駆けていきたいというのは、ちょっと想像がつかない。アニメ王国というのは悪くない。オタクの人達の消費力というのはとても大きい。街とコンテンツが密着していなければいけない。1万6千人位しか住んでいない小さな町を舞台にしたアニメが放送され、15万人の観光客が1年で来た例がある。アニメの中に本当にきちんとそのまま町の様子を再現した。聖地巡礼みたいな形でファンの方が泊まり、大体1年間で小売りが2.8億、飲食3.4億、交通1.6億の計7億2千万円位の経済効果があった。そういうコンテンツがあれば、とてもおもしろい。今から新しく既存のものを持つてくるのは、不要。
K	女性	50代	西大畑町	最近「〇〇の陣」が結構出てきているので、その辺から観光事業という意味で入って行ける。
L	男性	30代	沼垂東	「新潟版ディズニーランド」は、民間が力を入れて巨大プロジェクトでやるということであれば、成功する可能性は無きにしもあらず。中途半端につくると全てがうまくいかない。全国的に見てもそう。ディズニーランドやUSJ等の規模でなければ上手く採算性がとれない。話としてはおもしろいなどは思う。産業という意味では、新潟の強い所をより磨く。その意味では新潟市から離れるが、三条の物づくり。田園都市という所から、食の産業を育成していくっていう事が一番よい。ある物を活かして行くという意味で、強い所をより強くしていく。
M	女性	20代	親松	新潟からマンガ家がたくさん出ている。「日本のアニメはすごい」と海外で盛り上がっているというのもよく聞く。スカイプロジェクトが進行しているのであれば、海外から直接新潟へ来られるようにしたら良い。東京から新潟に来るのは、新幹線に乗って、となる。海外と新潟空港が繋がれば、新潟のアニメを目指して外国の人が来るのではないかな。
N	女性	20代	本町通12番町	アニメ王国というのは、新潟ではだんだん耳に馴染むようになってきた言葉。ロボットランドということで、とても大きなモニュメントというのは目を引く。お台場のガンダムや、この前も映画の宣伝で、万代に実際に使われた起き上がるパトレイバーが来た。その時は人が多くいて、ツイッターもその話題になっていた。写真をアップして。そういった大きなモニュメントはそのアニメ等を知っていなくてもインパクトがある。それプラス、このロボット産業や、スカイプロジェクトで小型エンジンの開発をしている事等を、博物館的な、自然科学館に近いような、アニメ寄りのロボットランドであれば、親しみやすい。
O	女性	20代	女池	万代のビルボードにある、マンガ・アニメ情報館は行きにくい。産業振興センターで湯ケツトをしているので、そういうものを、もっと活性化させると、人が集まる。農業を会社化すればよい。従事する人が少ないので。同じゼミの人が、卒論で農業を取り上げていた。Negicco等のように、農業アイドル等をつくれればよい、と話していて、おもしろそうだ、となった。新潟といえば、食べ物というイメージが強い。そこに従事する人が少なくなっている。もう少し農業を身近に感じられるような施設があったらいい。
P	男性	20代	船場町	新潟と言えば、大多数の人が「お米」と言う。意外とアニメの部分もかなり知られている。高橋留美子さんや水島新司さん等の博物館を開設する。新しい産業を開発していくには、新潟は物づくりという部分が魅力的。その辺りをクローズアップしていけば、新潟の魅力の一つになっていく。

	性別	年代	居住地	コメント
Q	男性	20代	二葉町	新潟市の中央区には、安田のサントピアワールドの様な物がない。中央区に遊園地、テーマパークを作るのであれば、良いと思う。
R	男性	20代	高志	新潟はアニメ王国。マンガの作者が多いというのは知っていて、ピンと来る。ロボット産業は初耳。アニメとロボットを合わせて押し出していくことには、少し疑問を感じる。
S	女性	40代	関屋大川前	新潟はアニメ王国。アニメの有名な方が居て、古町に銅像がある。もっとみんなが見に行きたい、行きやすい場所に。万代にもアニメに関する物があり、今は色々な所に点々としている。もっと規模を大きく、アニメが好きな人にとってはものすごく行きたい場所にする。ミッキーが好きだからディズニーランドに行くような。そうするともっと県外の人も来る気がする。
T	女性	40代	窪田町	以前沖縄かどこかで、アニメを主体にしたアミューズメントパークをつくらうという案が、採算が取れないという理由でなくなった計画があるらしい。新潟は良いマンガ家が多い。アニメに特化したテーマパークがあるのもいいと思う。新潟市の教育を充実させてほしい。いろんな良い知識をここで身につけて、新潟の企業を活性化して、税収を上げて、ということをしてほしい。
U	女性	40代	万代	新潟はアニメ。ドイツから家へホームステイで来た人も、アニメに興味を持っていて、古本屋に行って「こんなに安く買えるんだ」と、喜んで買った。新潟のアニメは強み。それに関連づけたことが出来たら良い。伝統工芸的な何かを取り入れた事業も魅力的。アニメというと、日本全体というイメージなので、新潟にしかない何かがあっても良い。
V	女性	40代	東大通	アニメはとでもタイムリー。新潟には色々なマンガ家がいる。発祥の地といった形で、どんどんアニメを使っていけば良い。アニメの専門学校も新潟にはある。珍しいのか、県外からも学生が来ている。学生から取り込んでいき、コスプレ祭りのような事を新潟でしたら、お金も掛からなくて良い。別にディズニーランドでなくても、イベントが根付いていけば良い。
W	女性	30代	下大川前通	中途半端な施設をつくることは、負の遺産になりかねない。新潟はアニメ等、才能を持っている方が多い。アイドル的な要素も結構強い。アイドルの聖地的なところや、マンガや、物づくりでは負けないところもある。そういった才能をフューチャーするのは大切。発掘してフューチャーすることには賛成だが、負の遺産になりかねないような物をつくることには賛同できない。
X	女性	30代	鏡西	アニメ・マンガ館が万代にある。それをリンクしてもう少し何かしようと考え。いろんな所にポツポツと、古町にも何かある。離れているのはもったいない。場所は空いているので、いっそ一緒にしたらよい。NGT とアニメ・ロボット、関連できると思う。好きな人は多分好き。特化して。私も嫌いではなくて、割と好きな方。それが一緒になったら、いいのと思う。場所が離れているのはもったいない。古町にもあることは、知っている人しか知らない。行ってみたら、似ていた。だったら一緒になった方が豪華になる。

(10)『イベント王国・にいがた』を目指した若者主導の事業を作り出そう

『マンガ・アニメと連結した、世界的イベントの開催』

『若者が運営・企画について学べる環境づくり』

『古町はファッションイベント、鳥屋野潟は音楽フェスの拠点として要望』

若者主導で事業を作り出すにあたり、若者が運営・企画について学べる教育プロセスの必要性について意見が挙がった。学生の中から運営・企画について学ぶことで、新潟をもっと好きになる、社会を体験できる等の効果が期待されている。総合学習として授業に組み込むという意見もあった。

イベント案として、女性や若い世代は「音楽フェス・野外コンサート」「フリーマーケット」「ファッションショー」「マンガ・アニメ」「コスプレ」「アイドル」等、POP カルチャーに関するアイデアが多い。「音楽フェス・野外コンサート」の拠点として鳥屋野潟、「フリーマーケット」、「ファッション」の拠点として古町を想像している。他にも、規模が大きい国内や国際的なイベントの誘致を提案する意見も聞かれた。日本のマンガ・アニメは世界中から注目されている。「ドイツの村で、年に何度かアニメのコスプレをするイベントがあり、それをめがけて全世界から人が集まる」とあるように、マンガ・アニメと連結させる事で、国際的なイベントとすることも可能と考えられる。

「酒の陣」を成功例として捉えられている。「〇〇の陣」や他のイベント等、開催予定を一覧として見られる「年間イベント歳時記」に対する期待が大きい。年間のイベントを周知することで、市民参加を促す効果や、市外や県外からの集客を促す効果があるものと考えられる。NGT48やNegicco等、全国的なアイドルを起用することも、集客効果として期待できる。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	イベントを統一して管理する会社は、おもしろいと思うが、利益を得られるかどうか。
B	女性	60代	網川原	「酒の陣」は、どんどん参加者が増えて、すごい。魅力のある催しで、色々行うから、人が集まっている。それを長く、増やしていく方法や、行う人がもっと考えて続けて行くことが大事。
C	男性	60代	西湊町通	イベント毎に個々で運営していくより、一か所で管理していくやり方は、とても良い。それぞれのノウハウが全部蓄積されて、一か所に集められるので。今後どのようなイベントを考えていったらよいか、どのように改善していったらよいか、といった考えが集まる。一つに集約し、運営していった方がよい。新たなイベントとしては、下に曙公園があり、そこに土俵がある。子どもの頃は、相撲大会があった。どこの管理か分からないが、ぜひ利用して復活するとよい。
D	男性	60代	神道寺	大道芸人を呼ぶことも一つのイベントとして成り立つ。あるいは、中学生、高校生くらいを対象にした「ロボコン」、高専高校や大学でしているロボットコンテスト。今は世界大会まである。科学の町みたいなイメージ。文化的な所では、砂浜でNGTやNegicco等、みんなで派手にやってもらう。丸1日、とにかくアイドルも砂まみれ的なイベントをしたり、雪まつり時期には寒いところでイベントを行う。組織として、運営する会社は必要になる。

	性別	年代	居住地	コメント
E	男性	60代	女池	運営会社は、することが出てきてから立ち上げないと、最初からは難しい。収入がどのように図れるか、利益をどうしていくか。例えば年に一回やるようなイベントでは、会社として成り立つのか、ということ。食の陣にしても、酒の陣にしても、それぞれ団体がある。そこと共催できるのであれば、先々可能かもしれない。「古町どんどん」は、最初の年は春、夏、秋と3回した。その時は、商店の人達が総出で手作り。今は、お願いして出店してもらい形に変わっている。それを考えると、最初から会社というよりも、まずはいろんな物を少しずつ集めてやっていった方がいい。個人的な趣味から言うと、映画の招致。去年も新潟県内でロケしていたが、そういう事をどんどんアピールしてほしい。
F	男性	60代	西区大学南	組織を立ち上げた時に、その組織が興行としていくための営利なのか、非営利になるかで違ってくる。その合意をとれるのかどうか。ギネスブックに載るような、発信性の高いイベントを研究していく。鳥屋野潟なら、千人くらい入る芝のスタンドを堤防に作ってもらい、棧橋がNGT48のステージになる、一石二鳥三鳥になるもの。キャンプや野外コンサートが出来るだけコンパクトにすることが出来て、一定程度の興行収入、イベント収入から、ルールを作り、潟の浄化にも何%か回して、ということであれば、みんな賛成するかと思う。
G	女性	30代	上大川前通	「年間イベントの歳時記」を作って、市民があらかじめ知っておけば、お客様も呼べる。ここは大事。
H	女性	50代	見方町	地域力をアップすることに、今は結構力が入っている感じがある。イベントに関しても、今持っている地域の魅力をより出せる、打ち出せるような内容に持っていったらよい。イベントはあると楽しみ。いろんな陣があるが、東京から近いことも考えると、例えばミニカーショーや、モーターに関する物があってもよい。イベントをすることによって、みんなが動きやすい状況に。交通の便も案内も、公標をはっきり打ち出して行くと人が動きやすく、入りやすい。新潟に来たら分かりやすい状況になっていければ、もっと人を呼べる。
I	男性	40代	関屋田町	「酒の陣」は県外の方もよく知っている状況になっている。サッカーのアウェーのサポーターは、「酒の陣」を毎年楽しみにしている。その後どんどん広がっていく。一万近くサポーターが来て、「酒の陣」に寄り、そこから新潟のおいしいお寿司屋さんを洗いざらい食べつくして帰っていく。世界モーターショーや世界ゲームショー等、新潟のまちなかで世界規模の見本市があるとよい。イベントの運営会社もありだが、若者たちがイベントを運営、企画するための「教育をするプロセス」が、とても重要。それを仕掛けづくりしていく事が大きなポイント。自分自身、挑戦・企画で各大学の学生に集まってもらい、学生たちでアイデアを出す講座みたいな事をした。「自分たちでイベントしましょう」というのを学生からずっと研究ラボみたいな形でやっていくと、本人たちも新潟のことを好きになっていく。そういった力も学生の内から養ったり、社会人を知るとか、非常にチャンスだと思う。「教育をするプロセス」は肝。
J	男性	30代	秣川岸町	イベントがそれぞれのコンセプトにかぶらなければ、悪くはない。ドーンと人を呼びたい為のイベントだと思うし、イベントに出店する人はドーンと人が来てほしい。自分のお店を知ってほしくて出店する。コンセプトがグラつくくと、集客できなくなる。それぞれにきちんと特化した物があれば、年間計画をやっていけば悪くはない。年間計画として統一するような会社は、運営が成り立てばよい。出展者目線、経営者目線でしかないが、人が来るかというよりも、そのイベントで採算がとれるかどうか。どうしてもその視点で見る。それが可視化できれば、悪くはない。計画があれば便利だと思う。採算性を考えると、株式会社化は難しい。

	性別	年代	居住地	コメント
K	女性	50代	西大畑町	「酒の陣」は県外からたくさん来ている。新幹線とホテル等がバックになっていて、来る人は来る。その頃になると、新潟のホテルも一杯になる。シティマラソンも意外に県外から来ている。その日は「古町どんどん」と同じ日だったが、会場の方では一切そういう広告が無い。「分からなかった、みんな帰っちゃったよ」と県外の友達に言われた。そういう風に色々なイベントがあるなら、タイアップした形でもっと宣伝すればよい。採算が取れるとなれば、参加しようというお店もどんどん増えてくる。それによって賑わいになっていく。経営者目線はぜひ、取り入れていただきたい。「年間イベントの歳時記」が新潟のパフレットに一覧表になっている事で、酒の陣だけでなく、他の陣の時も色々な方にどんどん来てもらえれば。「年間イベントの歳時記」という言葉は使える。パフレットが出来るのであれば、載っているとよい。
L	男性	30代	沼垂東	運営会社はあってもよい。採算がとれれば、本当におもしろい。月1回でも月2回でも、何かイベントがあり、外部の方が足を運ぶような物があればよい。新規の若者たちの企画挑戦を促していく、どのように会社に取り入れていくかがしっかりと成されれば、おもしろい。
M	女性	20代	親松	イベントをもっとどんどんして欲しい。子どもとすると、「1日何しよう」って思う。この間「ふるさと村」に三条の鬼が来るというイベントがあった。その時には、入れないくらい混んでいた。フジロックでは県内外、海外からも新潟に10万人来ているのに、そこにしか行かない。新潟直結のバスや宿泊施設を増やして、新潟にも来て帰ってもらえるようにする。10万人が来ていることは、新潟にとってすごいチャンス。それが活かしたら良い。鳥屋野潟は広いので、音楽フェスが出来るような気がする。せっかく広いので、人が集まる音楽フェスがよい。最近では都市型フェスというのも流行っていると聞いている。交通の便も良く、広さがある程度あれば可能。
N	女性	20代	本町通12番町	「食の陣」「や」「酒の陣」等、定期的に開催されているものは、大分馴染んできている。「年間イベントの歳時記」で「この時期だったら、これがある」となる事は良い。マーケティング組織のような、統括する団体があり、そこに、大学生や小学生が学校の授業の一環として入り込む。行政が統括していれば出来るのではないか？総合学習の一環で、このイベントに応募する物等があり、みんなでやりましょう、となれば、子ども達も、「自分も参加したから見に行こう」となる。関わっていると、行きたくなる。「誰かがしているイベント」ではなく、「みんなで作っていけるイベント」がたくさんあれば良い。古町ですとしたり、食。ラーメンやコーヒー等、「コレ」と決めたテーマの中で、旬の食べ物のイベント。毎月でなくても、年に4回とか、当日座が4回等。鳥屋野潟なら、音楽フェスがよい。新潟で頑張っているバンドや、いい音楽をしている人たちが活動する場所にしたら良い。明るい広い場所で聞いてみて、「いいな」となったら、ライブハウスにもお客さんは行く。ライブハウスというと「暗い」、「タバコ」といったイメージが強いらしく、行きたくないと感じる人も多い。楽しい場所なので、知ってもらうきっかけとして、フェスがあったら良い。
O	女性	20代	女池	音楽が好きで、ライブによく行く。新潟は開催地として、飛ばされがちな地域。県外から遠征で来る人が来にくい、泊まりにくい。去年の5月には、新潟にあるライブハウスで、万代と古町とロッツで同時にライブを開催するというイベントがあった。タイムテーブルを見ながら全部回れる、という事をしてきた。それはとてもいい。趣味も細分化してきているので、そういった特化した人たちを呼び込むのも良い。個人的には音楽が好きなので、新潟が飛ばされない地域になってほしい。古町は古着屋が多く、屋根もある。フリーマーケット等を開催したら、人が来て歩いて、周りのお店に入ったりして知ってもらえる。「食の陣」ではお店が出ているので、周りのお店には入らない。食べ物以外で開催すると、飲食店に入る効果も見込める。アルビレックスの試合の時に、小さなブースを設けて子どもとインストラクターの方がサッカーをしているのを見たことがある。ビッグスワンの中に入れて、子どもサッカーとか楽しい。

	性別	年代	居住地	コメント
P	男性	20代	船場町	新潟の強みは食。以前からラーメンが有名。カレーも有名になってきて、カレーのスタンプラリー等がある。個人的に「コーヒーの陣」なんかもおもしろそう。お年寄りから若者まで馴染み深くて、低予算でおさまって、手軽に参加できるイベントでないかと思う。古町で特化した部分にファッションがある。屋根があるので、フリーマーケットを開催したら良い。韓国やアジアでは、「ファッションウィーク」と言って、その期間には安く服が買える。お洒落な人が集まって、写真を撮ったり、服が買えたり。古町でもそうして、入りにくかった個人経営店でもブースを設けて出店されれば、気軽に見られ、知るきっかけになる。ファッションを取り入れたイベントを催していくべき。けやき通りややすらぎ堤等で開催した「光のページェント」を、鳥屋野潟に設けて、川と自然を織り交ぜるイベント。
Q	男性	20代	二葉町	「健康の陣」とかあったらいい。古町等で、マッサージやヨガの教室、足湯、サウナ、とトータルで健康に良いイベント。古町等でする新しいイベントとしては、やはりファッション。出店して安く販売するという事に加えて、有名なモデルを招いて、ファッションショー等をしたら盛り上がる。鳥屋野潟で音楽イベントも良い。古町や万代ほど都会でもなく、広さがある。自然がある。ペットフェスも良い。
R	男性	20代	高志	ぜひ「ラーメンの陣」をして欲しい。「アニメの陣」というのもあったら良い。アニメの作品にちなんだ、参加者全体が盛り上がるようなイベントがあれば楽しい。古町では、ファッションショーをしたら良い。古町のお店と商品のPRになる。美少女図鑑とタイアップもいい。鳥屋野潟では、ロックフェス等の盛り上がるものも良い。野外コンサートならクラシックやジャズとかをするのも良い。
S	女性	40代	関屋大川前	「陣」というのはとても良い。新潟に「うまさぎっしり」というものもある。「野外コンサートの陣」とかもおもしろそう。若い人たちが主導となって、まだメジャーではない人を発掘するとか、とても楽しそうが良い。
T	女性	40代	窪田町	この「陣」というものが、だんだん新潟に定着してきて、何カ月かに一度の「陣」を楽しみにしていきたい。良い事業だと思う。
U	女性	40代	万代	様々な「陣」があるというのは良い。ジャズストリートやラ・フォルジュルネといった音楽イベントも、その時だけではなく、頻りに年間を通じてすると良い。
V	女性	40代	東大通	「酒の陣」も「食の陣」も楽しみ。市民の方も楽しみにしていると思う。そういった良いイベントは、「電子ゲームの陣」や「〇〇の陣」と色々拡げずに、当たっているイベントを定期的で開催したら良い。潟コンも新潟の何千人もの人が動いてとても良い。成功しているイベントを極めていった方が良い。全部「陣」であればこれもひっくるめるよりも、成功しているイベントをもっとよくして回数を増やす。イベントを確たるものにしたら良い。ドイツのある村に、年に何度かアニメのコスプレをするイベントがある。それをめがけて全世界から人が集まる。イベント的にコスプレ大会のような事をする。
W	女性	30代	下大川前通	「〇〇の陣」や「〇〇フェス」といった単語を、しっかりと根付かせるようなイベントは良い。例えば「食の陣」や「酒の陣」といった「陣」でしばったイベントを、会社なり組織なりで管理して1月はコレ、2月はコレとあったらおもしろい。コスプレも思った。ハロウインの時などは、みんな自分じゃないみたいになるのは好きな人は多い。みんなコスプレをして、堂々と街を歩ける、といったイベントをつくっても良い。
X	女性	30代	鏡西	「ラーメンの陣」や「グルメの陣」等、「陣」づくしは良いと思う。夏に肉フェスがあった。ああいった事を毎回して、新しいものに繋げていく。

(11)若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、 生活しやすい街づくりや職場づくりをしていこう

『企業と連携し、異性と出会わせる仕掛けづくり』 『女性が支障なく社会復帰できる環境づくり』

結婚に対するイメージは、若い男性はマイナス、若い女性はプラスのイメージと感じている。若い男性は、金銭的な不安、自由時間がなくなることへの不安、ライフスタイルの変化による環境への不安、責任感への不安がマイナスイメージとなる主な要因として意見が上がった。結婚しない理由として、「幸せそうな夫婦、老夫婦を見ないから、結婚に対してイメージが湧かない」といった意見があるように、不安を解消することで結婚しやすい環境づくりに繋がると考えられる。

現在では婚カツ事業等をはじめ、昔と比べて出会いの場は増えていると予想される。ただ、「休日でもインドアで1日過ごしている」といった意見があり、結婚をマイナスイメージとして捉えている人からは、自発的な参加は見込めない。「勤め先、事業所のお墨付きで出席でき、かつ、泊まりがけの場。同業種・異業種交流会の従業員や社員版。表向きは研修会として、費用は会社で負担。」といったアイデアの様に、半強制的に異性と出会わせる仕掛け、があっても面白いのではないか。企業との連携により、直ぐに実行できるものと思われる。

出産・子育てでは、企業・行政に対して協力を求める意見が上がった。企業に対しては、「出産後、復職が認められなかった」、「育児のための休暇が取りづらい」、「保育先が決まらないと採用してもらえない」といった出産・育児や社会復帰への協力を求める意見が多い。行政に対しては、「就職してないと保育園で預かってもらえない」、「育児に掛かる費用(ミルク、おむつ、肌着等)への支援」、「就職していない(できない)ママへの支援」といった意見があった。子どもと向き合いたいと思いつつも、育児に掛かる費用負担を軽減するために働く先を探そうとするが、働いていないため保育園で預かってもらえず、保育先が見つからないため、企業から採用を断られる、という負のスパイラルを生み出している。行政が支援の充実や保育制度の見直し、企業への指導等を行い、女性が支障なく出産・子育て、社会復帰できる仕組みづくりを構築し、不安が聞こえてこない街づくりをすることが、結婚・出産・子育ての促進につながると考えられる。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	仕事の関係で、若い、出産したて、妊娠中の方等、お父さんお母さんと話す機会がある。東京等と比べると、新潟市の場合にはけっこう恵まれている。兄弟でも預かってもらえたり、どちらかの親が見てくれるので。人的な恩恵があるのに、今の方々が何故結婚しないのかというと、幸せそうな夫婦、老夫婦を見ないから、結婚に対してイメージが湧かないというのをハッキリと答える。「そうではない」と、きちんと伝えて行くこと。それから所得の問題で結婚を諦めている方や、若い十代後半で結婚する方は、離婚もできない等、色々なことを聞く。そこをきちんと変えないと難しい。この計画案11の「取組の内容」の欄で、「女性の職場付近に～」とある。「子育ては女」というジェンダー視点がある。そういうところが、今の若い女性にもものすごく拒絶反応される。イクメンという言葉も浸透しており、若い男性も子育てに参加することで、今とても疲弊している。職場で疲れ、家に帰って子育て、それで上司は「男のくせに子育てにかかる」と。それをマタハラ（マタニティーハラスメント）と言うが、そういうことがある世の中で今、結婚が難しい。きちんと公的な機関での教育等が必要。新潟市の場合、講演会があると必ずまちなかに公設無料保育所づくりで無料や500円の保育がきちんとある。でも、みんな知らない。どんどんもっとPRしてもらいたい。先着何名ではなく、「30名来たら30名出来ますよ」という様にして、妊婦も子育て世代も外へ出られる様にする、「ああ、幸せそうだなあ」と思って、結婚につながると思う。
B	女性	60代	網川原	女性が職場で働いている間、子どもを預ける。その預けるのが一番大変。1人ならよいが、2人、3人となると、同じ保育所に一緒に入れない等。自宅から近い所に預けたい。そこで利用しやすいのがコミュニティで、そういう所を設けてもらいたい。
C	男性	60代	西湊町通	今、20代の子どもが3人いるが、全然結婚する気配がない。職場に女性がいなくても、原因があるのかもしれない。色々なケースがあると思うが、休日の過ごし方をみても、インドアで1日過ごしているような状態。外へ引っ張り出すような企画があればと思う。夜の界隈を巡るイベントもある。日帰りバス旅行でもよい。半強制的にでも引っ張り出して、というような企画をしてほしい。
D	男性	60代	神道寺	勤め先、事業所のお墨付きで出席できるようなもので、かつ、泊まりがけのような場。同業種・異業種交流会の従業員や社員版。表向きは研修会として、費用は会社で負担。飲み会があり、同じような立場の男女が話し合えば、うまく行く。商工会議所がらみでも出て来れば。
E	男性	60代	女池	まずは、女性にやさしい街づくりが求められる。空き家を利用し、職場近くに子どもを預けられる場所を作ること、方法として考えられる。保育士の不足もあるだろうし、人材を確保する、もしくは育成していくということも一緒にしていかないと。県が婚カツで予算を組んでいるように、新潟市だけでなく、全県で取り組んでいかなければならない。一番簡単な方法は、世帯の収入を増やせば、おそらく子どもも増えると思う。少子化と合わせて、色々なことを全部やっつけていかなければいけない。
F	男性	60代	西区大学南	後で色々問題にならないように、きちんと管理しながら、出来るだけ出会いの場を作っていく。東京にインキュベーターセンターというものがあり、若者が他の社長同士と共同で職場を作っている。そのようなインキュベーターセンターを新潟へ誘致したらどうか。出来れば、半日稼働して、半日仕事しているようなものを、鳥屋野潟にぜひ作ってほしい。その様に職場、若い人の出会いの場、遊び場がくつついた物があれば、そこで婚カツイベントをしたらおもしろい。老夫婦が楽しんでいる場面が常に若者に出ないと仕方がない、という意見は非常に参考になった。1コインの託児所がよく宣伝されていないことも参考になった。NPOでイベントをするが、1コインの託児所のコマーシャルは入っていない。新潟のイベント等へ行く時には必ず、「託児所付き」や「この券持って行ったら1割引きになる」等行くと素晴らしい。

	性別	年代	居住地	コメント
G	女性	30代	上大川前通	子育て真っ只中なので、困った事と言えば、預かってくれる人がいないこと。自分の場合はそんな近くないが、両親が車で30分位の所にいるのでみてもらうことは出来る。周りを見ると、親が近くなかったり、みてもらう人がいない事で動きづらいついという声は結構ある。託児所もそうだが、もっと気軽にみてもらえる環境があればと感じている。
H	女性	50代	見方町	知っている人が登録制を利用しているが、預けたい所に預けられない。預けたい所を待つために、今年の春まで待たされる。何かサポートできたらと思っても、自分がそういう体験がないので、どこをどうしてよいかも分からない。年齢が高い男性の方で、結婚していない人にお見合いを勧めても、結婚を諦めている訳でないが、自由な時間を過ごしていて、面倒くさくなっている。困ってもいなく、両親が年とるのに、「いや、もういいんだ」ともったいないと思ったりする。サポートも、勧め方も、個人と行政では違うのかなと感じる。支援が充実していけばよい。個々の問題なので、入り込めない難しさはある。
J	男性	30代	秣川岸町	昔に比べると、出会いの場が多すぎ、いつでも出会えるという事があると思う。周りの半分がまだ結婚していない。女性も男性も30歳くらいになると、経済的にお金があっても、一人で楽しいから結婚しなくてよいという人が、結婚しない人の理由。それは時代なので、どうしようもない部分がある。ただ、結婚しない女性でも、「子どもが欲しい」と言っている女性は少なくはない。子育ての希望をかなえとか、生活しやすい街づくりや職場づくりをしていくのは、大賛成。自分も子育て世代なので、そうしていただくことによって、もう一人子どもを産めるとか考えたりできる。子育てで困った経験は保育時間。朝早い、夜遅いだけでも全然違う。自分は自営業で、朝とても早い。3時4時くらいから働き始める。夕方はもちろん早く切り上げる。妻が公務員で、帰って来ると大体8時くらいになる。自分がもし夜仕事があった場合、迎えに行く人間が誰もいないという事を考えると、民間の所にしか預ける事が出来ない。朝早く、夜遅く保育してくれる所があればとても助かる。その他は、結構充実している。
K	女性	50代	西大畑町	去年、一昨年くらいから「子育てをお手伝いしたい人」というポスターと、色が反転して「困った時に預けたい人」という、それぞれに対してのポスターを並べて貼った。元気であれば手伝いたいという方もいる。お年寄りの場合、ショートステイがある。その子どもバージョンがあると、考え方として、わかりやすい。普段は大丈夫でも、認知症や介護が必要な親が一緒にいる時や、冠婚葬祭で子どもと一緒に連れていけない時に、子どもに対してショートステイがあればよい。確かに昔は地域のコミュニティで、お隣のおばちゃんや、向かいのおばあちゃんが、ほんのわずかな時間でも、みてもらえる地域性があった。今、それは色々な責任問題があり、気持ちがあっても、預けられない。そういう意味で登録制になり、知らない人でも行政で担保されていると、お互いの安心の部分になる。
L	男性	30代	沼垂東	新潟市の場合は、若い世代の子育てという意味では、全国的にみても非常に恵まれている。非常に手厚い支援をされていると思う。保育所という意味でも、待機児童は何名かいると聞いたが、全国的な水準からみれば非常に恵まれている。子育てでは、新潟市の場合は登録制で預け先を紹介して下さるシステムがある。始めたばかりだそうだが、宣伝したり、周りの口コミが進めば、非常によいシステム。その他に大きな問題として、今の社会的な個人の流れというか、人との関わりがかなり薄い。昔なら近所のおばさんに少しみてもらおうということもあったが、そういう事がなくなっている。行政に頼らざるを得ない。地域のコミュニティが、それをある程度担っていく物を自発的にしていかなければいけない。それがソーシャルビジネスとも繋がる。この解消は本当に難しいことだが、やる人もいる。そういう人を行政が支援して、場所とお金をある程度援助する。元気な高齢者が集まり、その人たちをサポートする所が各地に出来ると、自分が病気や具合が悪くても預けられる。そこを行政がきちんとバックアップし、信用を担保すれば、相手が知らない人でも預けやすい。

	性別	年代	居住地	コメント
M	女性	20代	親松	働く時間が長くないと、審査に落ちて保育園に入れない。正社員でないと、入れない保育園もある。家庭の事情も聞かずに、正社員が何点、といったような点数制。点数が高い人から入れる。気持ちがないと感じている。点数制は紙一枚で、処理が早いのだろうけれど、もう少し「母子家庭で困っている」とか、「お給料が少ない」といった話も聞いてもらいたい。自分自身は育児をしていて、正社員では働きにくいと感じる。大きい企業は時短で早く上がれたりもするが、中小企業はフルでガッツリ働いてくださいと言われる。そうすると帰ってからが忙しい。優しくないと。もう少しお母さんの事も考えて欲しい。今欲しいのは、職場での支援。居やすい職場。子どもが熱を出して休む時に、「また熱が出たの？」みたいな反応。「今日も休みます、すみません」と思ってしまう。そのフォローは難しいと思う。お互い様とはいえ、会社側も休まれると困るので。社会全体が子育てしやすいといい。出産後も肌着等、色々必要な物がある。絶対に必要な物なのに、自分たちで工面しなさいでは、経済的に不安。夫の実家が山形で、市か町かで、おむつ無料券を配っている。月に何千円と掛かるおむつ代が、無料券として出ている。スウェーデンでは必要な物が箱に入って、国から支給される。箱自体もゆりかごになる。日本にはそういった制度はない。産んだら自分で育てなさいでは…。もう少し優しくしてもいいのではないかと。
N	女性	20代	本町通 12 番町	何歳で結婚して、といった目標はある。結婚して、子育てしなきゃいけないと思っている。結婚はプラスのイメージ。個人的に今までたくさんの人にお世話になってきた。恩返しできるとしたら、結婚して子どもを産み、育てて未来につなげていくこと。それが一番だと考えていて、結婚したいと思っている。マイナスの不安要素もたくさんあるが、「今楽しそうに結婚生活を送っている人たちは、どうして楽しそうなのだろう」と考えて、それが自分と相手なら、どうやって解決していけるのか考える。楽しいことがあれば、辛いことがあっても頑張れる。捉え方を変えて行きたい。子育て等の問題が浮上していない時代もあった。昔は良かった。今問題になっているが、なぜそれが問題として出てきてしまったのか、なぜ変わったかを根本的な問題として取り上げて向き合わなければならない。
O	女性	20代	女池	将来、子どもを「欲しいなあ」と漠然とは思うが、「育てて行けるのかなあ」という不安は大きい。結婚はプラスのイメージの方が強い。結婚はしなければいけない物でもない。機会があれば。家に誰かがいて話したり、頼ったりする事ができるのはとても大きな事。家の戸数が減れば、電気等の無駄も減る。一緒に暮らすのはとても良いこと。周りへのバックアップを強めてほしい。保育士の友人がいるが、免許を取って卒業しても、仕事量と給料の兼ね合いで、保育士にはならないと言う。賃金を上げれば働きたい人も増える。
P	男性	20代	船場町	結婚や出産に、具体的に実感はわからない。結婚は、マイナスのイメージが強い。ご結婚された方の意見を聞いても、時間がなくなるという事を聞いた。まだ若くてやりたい事がある。独身ならそういった時間も多く取れる。まずは結婚よりも、自分のためにと考えている。
Q	男性	20代	二葉町	結婚や出産を、いつしたい、といった事は特にない。全然イメージがわからない。否定的ではないが、軽い気持ちではできない。慎重になる。結婚は、先にマイナスのイメージがある。メリットとデメリットを考えた時に、当然両方あるが、デメリットの方が自分の中では多いと感じている。経済的な面や、時間の面で。ライフスタイル等、環境の変化等でストレス無くやっていけるかと言ったら、大変だと思う。

	性別	年代	居住地	コメント
R	男性	20代	高志	結婚や出産のイメージはない。いつかはしたい。結婚は、経済的な面での心配とは別に、様々な問題がある。そういった自分では解決の難しい問題があると、結婚は先送り、もしくは結婚しないといった消極的になる若者もいると思う。結婚は、どちらかというマイナスイメージ。一人で一生食べて行くのと、二人、子どもができればもっと人数が増えた時に、相手に合わせるといった制約やお金の面、自分の一存でどうにかなることではなくなってくる。そこが合致できなければ結婚という決断はできない。悩みどころ。新潟は離婚率が全国的に低いと聞いている。けれども、結婚した後のアフターサポートがないとも聞いている。離婚するにも、色々な問題があり、困っている人もいる。結婚・出産・子育てを含めたライフプランを考えてくれる人、気軽に相談できる人(窓口)を、行政や公共事業ですていいたら、増えると思う。
S	女性	40代	関屋大川前	自宅付近よりも職場付近に保育所があることは良い。きっとギリギリまで仕事をする事になると思うので。実際に育児休暇が明けると、行政の手続きの順番が逆じゃないか、と思うことがあった。育児休暇が明けて、職場に復帰することが決まっていた。働きたいと考えていて仕事が決まっていなかった人の場合、市からは「仕事が決まってから、保育の申請に来てください」と言われる。企業にしてみれば、預ける場所がない場合は仕事が決まりづらい。「まちなかに公共無料保育所づくり」というのは、とても良い。活性化にもなる。子どもを預けて買い物をした方が、慌てなくても良い。子どもがグズったら、買い物も途中でやめていかなければいけない状況にもなる。無料で子どもが遊べるような所は良い。
T	女性	40代	窪田町	子育てはとてもお金が掛かる事。かといってお母さんのニーズに応え過ぎてしまう事が、子育ての負にならないか心配。今の保育園は、朝早くから夜遅くまでしていて、三食出す所もある。お母さんて何をやる人？となる。子どもと向き合う時間もない。どうしてそんなに働かなければいけないのかといたら、お金の面が大きい。バリバリそのお仕事をしたくて頑張っている方も中にはいると思うが、お金を稼がないと生活がままならない。朝早くから夜遅くまで働くお母さんがいるとしたら、国や市から子育てにかかる費用をいくらか出してもらえる形になったら良い。
U	女性	40代	万代	今非常勤で勤めている。出産を考えた時に、そうなった時には辞めなくてはならない。子どもを預ける、預けない、の問題ではない。仕事を続けられる環境がなく、不安になる。
V	女性	40代	東大通	子どもが小さい時は、女の人が仕事を探すのは大変。仕事が決まらないとなると、子どもを産むのも後ずさりになる。例えば隣の聖籠町の方ではとても充実していて、赤ちゃんのミルクまで負担してくれる。バラつきがあり、新潟市は今イチ、まだまだ全然ダメだなど思ったことがある。毎朝妊婦さんに牛乳が2本届く市町村があると聞いたこともある。そこは市がお金持ちだからだと聞いたが、子どもは増えないといけなくて、それくらいしてもいいと思う。
W	女性	30代	下大川前通	子育ては、小さい期間が大事。お母さんが居られる環境であれば、時間の共有が大事。今足りないのは、子育てに掛かる経費を、国なり市なりがバックアップしてあげること。そこでまた2人目、3人目を考える機会になる。つい先日の『保育園落ちた、日本死ね』という投稿があったニュースに関しては、地域間格差があっても起こってはいけない事だと強く思った。沼垂テラスは沼垂小学校の子ども達がお店の前を登下校で通って行く。お店が空いていると楽しそうにちょっと寄り道したり、下校途中にバイバイしたり、「帰ってきたよ」「今日猫いる？」と言ったりする光景がある。それはとても嬉しくて楽しくて、そういったところで育て、大人になった時にその風景を思い出してもらえたらいいなあと思う。地域コミュニティで子どもを育てることは、とても大切。

	性別	年代	居住地	コメント
X	女性	30代	鏡西	<p>現に働いている人だけでなく、働いていない人の支援も視野に入れてもらいたい。子育てをしなければならなくなった人に対して、行政からの支援が非常に乏しい。「仕事をしているお母さんだから、こういうのがありますよ」という事は雑誌等に載っているが、戻れなくなった、仕事なくなる人達が、諦めなければいけない環境もあるから、少子化があるのでないか。正社員で働いていたが、子どもが出来て、結局戻れなかった。他のお母さんからも、会社が戻る制度を持っていないから「泣く泣く辞めた」といった話をたくさん聞く。金銭的な事で仕事を探しているのに、仕事がなく、保育園に預けられない。市役所では「見られるでしょ」と判断される。そういうお母さんの話をたくさん聞いた。今は求職期間も見えてくれるようになったらしいが、以前は「何日以上働かないと保育園へは預けられませんか」と断られた。仕事を探すにもどうしよう、となって、それが続いた。2人目、3人目を考えると、仕事があった方がよい。仕事をしなければ子どもを持ってない環境のお母さんが多い。一緒に居たいけれど、仕事を頑張って探す。普通に今働いている人が保育園に預けていて、探したい人が預けたくても、園で断られてしまい面接に行けないとか、そういうのも聞く。仕事はしなくても楽しく子育てできるとなれば、他の県から新潟に来たお母さんの話では、その県では小学生までは医療費が全額無料。1回目も2回目も全部無料。新潟では530円で、私はとても良いと思っていたが、「小学生まで無料だから、新潟はすごく高いから行くのをためらう」と聞いた。もっと支援が欲しい。</p>

(12) 高齢者が安心して暮らせるサービス付きモデル住宅の在り方を模索しよう

『社会との関わりを持ちながら、ライフスタイルに合わせて選べる環境づくり』

『行政の監督・管理による信頼性の担保・支援』

老後は施設への入居を考えている人が多く、同時に金銭的な不安も抱えている。裕福な人だけが入居できる施設でなく、贅沢でなくても全ての人が同じようなサービスを受けられ、安心して暮らせる施設が求められている。老後も社会と関わりを持って暮らしたいとも考えており、高齢者向けシェアハウスを希望する意見も多い。高齢者向けシェアハウスは、空き家・空き地の活用や、共同賃貸による低家賃化が期待でき、共同生活では、できることを自分で行うことでの生きがいづくりや、コミュニティとしての助け合い、安心感にも繋がると考えられる。

民間で施設やサービスを提供する場合でも、行政の管理・監督による信頼性の担保や、従事する人へのサポートも必要と考えており、行政からの支援への期待が大きい。将来、寝たきりの高齢者とならないよう、若いうちから教育を行うことも求められている。

	性別	年代	居住地	コメント
A	女性	60代	万代	体調、体が悪くなった時に、素人の方に介護される苦痛がとでもある。既存の小規模多機能や共生型等、色々な形で新潟市が取り組んで介護施設の底上げを図っている。ここ十年の間に出来る小規模多機能や、色々な施設のノウハウを、今全然関わっていない自分達も利用できる様な、システムづくり。
B	女性	60代	網川原	高齢者で元気な方が多い。有料ケア付き施設とあるが、低料金で利用できる場所が欲しい。
C	男性	60代	西湊町通	今現在、自分の住む周辺に、一人住まいの高齢者がけっこういる。見ていると、体が不自由な方もいるし、まだまだ現役で働いている方もいる。そういう人たちを見ていると、一人住まいでも、集合住宅へ入ろうという雰囲気というのではない。それなりに楽しんでいる。町内のイベント等があると、シルバーカーを引っ張ってでも出て来る。自分自身も後期高齢者になった時、このような施設に入ろうという気持ちはあんまり無い。
D	男性	60代	神道寺	今も施設としてあるか不明だが、軽費老人ホーム「有明ハイツ」。確実に年金の範囲内で十分に生活出来、夫婦でも入れる、かつてそういう施設が望まれた時期があった。その時に、しっかり制度として行っていれば、この問題はそんなに苦労していない。同じ施設の中に、重度の障害を持った年寄りや子どもの別施設があり、色々と簡単に対応出来た。今、非常に難しい問題は、きちんとした施設に入ろうとすると、お金がかかる。とてもそんなお金を用意できません、というのが本音。
E	男性	60代	女池	一人きりになり、あまり動けない状態であれば、残念ながら、医者が近くにいる施設に入るしかないのかと思っている。自立ができて、元気な内は、世間との関わりをもって生きたい。今は民間が主で作っているが、残念ながら色々な問題もある。行政が作れないのであれば、管理・監督をしっかりしてもらい、受け皿を作ってほしい。

	性別	年代	居住地	コメント
F	男性	60代	西区大学南	富裕な人たちが暮らす社会を作るより、若者と高齢者が混住して、街全体がそれを支え合う社会が原則。その上でサービス付き施設、年金で入れる施設があったらよい。これからシェア型の住宅等の新しいスタイルの都市が出来てくれれば。個人がどう負担するかというのはあるが、サービス付き施設があったらよい。
G	女性	30代	上大川前通	考えたことがない。自分が高齢になった時に入りたい所というイメージでは、ただケアしてもらわなくて、少し楽しめる趣味の活動をしたりとか、中であちよちよと買い物ができたりとか、今まで通りの生活もありつつが理想。
H	女性	50代	見方町	夫も自分も、両親を両方早めに亡くしている。介護や高齢者の面倒をみることがなかったのも、想像がつかない。ただ、生活も、体も、年齢にふさわしい環境に住みたい。諦めてしまわずに、楽しみを持ちながら生活できる場所に住みたい。そういう希望はある。
I	男性	40代	関屋田町	自分の妻の母親の場合、要介護の施設があって非常に助かった。要介護認定になるかならないかという問題がある。自分自身として、健康な時にこういった施設に入りたいと思う。私の家庭は子どもがいない。友人で結婚していない方もたくさんいる。「おじいちゃんおばあちゃんになったら、誰が看取ってくれるのかな？」という仲間が多く、そうした時に「自分達で施設作る？」なんていう話をよくしている。
J	男性	30代	秣川岸町	自分が年寄りになった時に、障害等の度合いにもよるが、自由度が高ければ、こうした施設は悪くない。例えばもし仮に自分の父親が母親を入れる時を考えた時に、経済的な余裕があればよいが、なくても面倒をみなければいけない。そうすると、もっと経済的な負担が掛かる。その時に、困っている人たちに対して、近い将来、行政は少なからず助けてあげる必要が出て来る。
K	女性	50代	西大畑町	今は両親二人とも認知症の介護 2 なので、有料老人ホーム。3 食付いて、夫婦部屋という形になっていて、入るとダイニングがあり、みなさん食事したり、おやつを食べたり、多少のイベントがある。非常に恵まれている所だと思う。介護レベルとは違うモデル住宅としての話となると、介護保険も使わないので、自費になる。そうすると本当に費用がかかる。自分の場合、介護保険を使っているが、有料老人ホームなので、費用が掛かる。もちろん食べ物も実費でハードルが高い。若い時に一生懸命働いて厚生年金をそれなりに貰っている人でなければ、特養の順番待ちとなる。もし自分が最後に残された時に、元気だけれど一人で心配だからと、こういう所に入りたとしても、きっとそんなお金がない。そこで、官民共同で少し安くなるにしても、高齢者より若い世代にお金を掛けてほしい。皆さんが動きやすくなれるように、交通の利便性を高めていただきたい。動くことによって、認知症は予防できる。そういう所から、元気なお年寄りや夢のある子ども達の街になるようになっていただきたい。

	性別	年代	居住地	コメント
L	男性	30代	沼垂東	私はこういう施設があったら入りたい。実際これから直近でこういう問題がとてもし懸案化してくると思う。将来を見据えて考えると、行政が積極的に行う。運営は民間に委託するにしても、何らかの形でやるべき。そうせざるを得なくなってくる。結婚しない事につながるが、40歳50歳になっても一人の方がいて、将来どうするのかと本当に思う。一人で、親戚もつながりがない。そういう人達を考えると、必要になってくる。要るか要らないかでなく、絶対要る。そういう意味では先駆けて行い、ノウハウを蓄積するという意味で、直近で造ってもよい。入るか入らないかは別としても、こういうのがあってもよい。アメリカのプラチナ社会構想で大学の敷地内に高齢者の居住区があるような、大学との連携はすぐ出来ると思う。県立大学や新潟福祉大学もあるので、すぐ出来る。保育園と併設した老人ホームも都内では結構ある。沼垂にも老人福祉施設、老人が無料で入れるお風呂、保育園が同じ建物の中に一緒になっている。せっかく一緒の建物なのに、一緒にイベントをやると見聞きした事がない。運動会を保育園がやり、その施設に足を運んでいる方に、一緒に入ってもらって、幼児と一緒に遊べたりする等、イベントを一緒にするととっても良い。
M	女性	20代	親松	有料の老人ホームや、ケア付きの住宅に入れる人というのはごく一部。介護が必要になったとしても、介護の費用が払えずに、家にいるという人が多いと思う。空き家対策でもあったように、配偶者を亡くした方同士等が集まって住み、そこに職員の方が一人いる等、地域に密着したグループホームがあれば良い。歳をとると頑固な面も出てくる。自分でできる事は自分でしたい。全てをしてもらえて、役割が一つも無いと、生きる希望もなくなる。全てしてもらおう施設ではなく、簡単な事は自分達でする等、そういった施設がこれからは良い。
N	女性	20代	本町通12番町	今困っている方に対するサービスは当然必要。自分が必要となり、入りたいか、どんな人でいたいかと考えた時に、そこまで助けを求めずに「ピンピンコロリ」と逝けたら一番いい。その年まで健康でいるには、今から何をしたらいいのか、という所も、この問題を考える時に必要な視点。ジャンクフードばかり食べて育っていたら、骨も体もボロボロで、寝たきり老人になる。手助けが要らず、健康に歳を積み重ねていける社会になれば良い。対症療法として、そのまま見た目だけ解決されて、根本的に変わらないまま未来に持っていったら意味がない。問題の一番の本質の部分は、不自由する人がいなくなり、みんな健康で歳をとっていくというのが理想。
O	女性	20代	女池	私がもし老人だったら、家族に迷惑をかけたくはない。お金を払って、仕事としている人たちに手助けしてもらいたい。そういった施設があれば入りたい。介護施設も保育施設も、そこで働く人が少なくなっている。そこに入れる人も少なくなっている。ダイレクトにお年寄りに支援ではなく、周りを支える人の支援をすればよい。バックアップを強くする事で、働く人も増えて、入れる人も増えると思う。従事する人のサポートに充てた方が、お年寄りにダイレクトに充てるよりも良い。
P	男性	20代	船場町	都心の福祉で補えない部分を、地方の福祉で介護する、という事を最近聞く。魚沼でしているという話を聞いたことがある。自分が介護される側なら、嫌だ。自分が育った所で最期を待ちたい。自分の住んでいる環境で対策が必要。アメリカの対策、大学内に高齢者の居住区があるのは、場所を設けて意見交換もできる。フラットと寄れる、余暇を楽しめる高齢者の場を設けるべき。以前スーパーでアルバイトをしていて、閉店間際に半額の商品を目当てにお年寄りの方が来ていた。なるべく家から離れない所に、満足のいく生活が暮らせるような、高齢者の為の施設を設けるべき。
Q	男性	20代	二葉町	部屋は別々で、共同スペースがあるような感じのシェアホーム。何から何までしてもらうのではなく、出来るだけ自分たちでして、出来ない部分を職員たちがしてあげる。食事等も作れるようであれば、自分で作るように。出来る人と出来ない人で、個人差で利用料金を変えたりすれば、費用効果もある。

	性別	年代	居住地	コメント
R	男性	20代	高志	寮のような、一部屋ずつになっていて、共同スペースもある施設。高齢者同士の関わりがあり、安心して暮らせると思う。その施設の住人で、職員等の費用を分担すれば、効率も良い。
S	女性	40代	関屋大川前	有料ケア付き＝高額と思った。やっぱり一人は不安。そんなにお金が掛からずに、誰でも入れる施設や、若い人と同じ街の中で一緒にいられるのが良い。歳をとった人が、若い人や子どもたちと一緒に四季のイベント等が出来る様な事があれば、どっちも元気になって良い。
T	女性	40代	窪田町	我が家は三世代同居で、私の両親がすぐに行き来できる隣の家に住んでいる。親が老化してきているのをとても感じている。父は転倒がきっかけで腰を痛めて、なかなか女性では男性を入浴させるというのは大変。週に二回デイサービスを利用している。あまり社会的ではない父ですが、介護をしてくださる女性が上手にしてくれるので、楽しみにして行っている。とても良いことだと思う。デイサービスを利用する料金は、それ程でもなく、助かっている。自分は父と母の面倒をみようと思っているが、自分が一人になったら、こういったシェアハウスを利用したい。「子どもに頼りたくない」という思いと、私が両親の傍に住むのと同じ様に、娘に「あまり県外へは行かないで」という様な事は、今から言っている。
U	女性	40代	万代	老人シェアハウスはいいと思う。一人は不安。特に歳をとった時に、病気や、何かしら不安がある。最後に安心感がほしい。なるべくお金の掛からないシェアハウスというのは、魅力的。
V	女性	40代	東大通	自分の親のことで考えると、最初に200万要る、400万要る、というのは要らない。老人のシェアハウスみたいにして、同じような生活レベルの人たちが集まって暮らせるような住宅に入ってくれたら良い。自分も、もし、老後一人だったら入りたい。あくまでも年金で納まるお金で。普通の生活が出来て、デイサービスが受けられたら。「持ち出しがなくても」と、みんな思っていることではないか。「あそこへ行けば、安心できるよ」と聞けば、新潟市内にどんどん集まって来る。本当にそう思う。
W	女性	30代	下大川前通	両親のことを想像すると、結構な歳だが、現役バリバリに働いている。これはもう、死ぬまで働くのだろう。嫌がりつつも、生きがいがあるのはすばらしい。生きる糧になっている事を考えると、彼らにも何かミッションを与えるというのは大切。今は生き方がとても多様化している。シングルの方もいれば、子どもがいない人、子どもがいても子どもに頼らない人もいる。そんな中で安心して終末を迎えられる、引き際を迎えられる施設があれば良い。お金があるとか無しに関わらず、見守ってくれる施設が今後絶対必要になる。昔は子どもがたくさんいたので、面倒をみてくれない子がいても、近くにいる子が面倒をみてくれた。子どもに頼る、親族に頼るといった事もあったが、今後はそういった事も薄くなっていく。それを考えると、安心して終末を迎えられる場所というのは、非常に大切。

	性別	年代	居住地	コメント
X	女性	30代	鏡西	<p>豪華なホテルのような所を買うということなのか、と思った。事業案 2(空き家のリフォーム、空地、空き家の再開発～)と関連づけて考えた。ここに住むよりは、安く借りられ、安く購入できる市営で、定期的に巡回してくれる人がいる事が良い。お金を持っている人だけが裕福な老後、というのはすごく嫌。自分が老後に裕福だというのが全く想像できない。母子家庭の知人が市営に入っている。もっと地域に密着して、周りの人が助けてくれるような、若い世代と一緒に住む街になって、隣接した人が顔見知りでというのが良い。県外から転勤して来た人から、「家族で風邪をひいてしまった時に、同じマンションに住んでいる人が、おかず作ってくれた」という話を最近聞いた。そういった事が、自分が歳をとった時に充実してほしい。急には無理なので、今から少しずつ定着して。子どもが少なく、支えてくれる人たちがいないのに、高齢者ばかり増えると、この有料施設を経営する人も負担となる。その負担も考えると、みんなが共存していける所があったら良い。私の祖父が介護施設を利用している。市によって利用できるサービスに大きな違いがあるのに、情報公開が少ない。行政が頼りにはならなかった事が最近身近にあった。情報公開という事を分かりやすくしたら良い。</p>

Ⅲ. 資料

新潟の未来に備えた賑わいの拠点づくり／街づくり計画

No.	事業案イメージ	取組の内容
1	まちなかに新潟の銘産品を集めたワンストップサービススポットをつくらう “外貨を稼ぐ拠点を作らう”	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかに新潟市8区の銘品が一堂にあつまるとしてのプラットフォーム広場を作らう。ピア万代の成功をモデルにしたマーケティング施設を官民共同で模索したい。 ・内外への地産外商マーケティング活動を促進し、外貨を稼ごう。 ・ふるさと村をイメージした施設を利便性の高いまちなかに作りたい。
2	空き家のリフォーム、空地、空き家の再開発などで居住者を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟島の空き家や空き地に対して居住人口の増加を進めよう。 ・地域の居場所として高齢者サロンや居宅介護施設としての活用も有効となる。 ・市民団体、NPO、民間事業者、コミ協などからの企画提案を募集しよう。 ・若者や高齢者の移住を促進するために税制面などの優遇策などを実施し、市街地の活性化の一助に繋げよう。
3	市民の心の拠り所となるシンボルを市民参加で創設しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟にはアメリカの「自由の女神」のような市民が崇拝するシンボルがない。 ・中央区の都心軸(古町～万代～新潟駅前)の中心にある萬代橋近辺に、未来への遺産(レガシー)としての崇拝シンボル像を建立したい。 ・オルゴール時計台、花の食の愛の女神像などを官民共同で建立しよう。 ・観光拠点としての未来遺産のシンボルを生み出したい。
4	おばあちゃんの原宿的な街づくりや「市場」を復活しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が徒歩で買い物できる市場の再開。昔の「楽市楽座」をイメージした賑わいを復活させよう。古き良き古町、本町、西堀などの復元計画を商店街と協同で行う。寺町通りの門前市やリヤカー部隊の出店なども街を潤す。 ・沼垂テラス街をモデルとしてネットワークの拡大を図っていきたい。
5	ソーシャルビジネス(社会貢献型ビジネス)の事業計画とその支援事業のプロジェクトを立ち上げよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルビジネスとは、少子化高齢化、育児、教育問題、障害者支援、環境保護、地域コミュニティ再開発など、解決されなければならない社会的課題をビジネスの手法で開発してゆく活動のこと。 ・社会的弱者の支援に向けて、社会にやさしい次世代のための雇用づくりの活動である。 <p>産・学・官で作り、社会資本価値をつくりあげてゆく。</p>
6	鳥屋野潟の環境保護と観光事業の両面を有する自然共生型の市民の憩いの拠点をつくらう	<ul style="list-style-type: none"> ・木場潟(石川県)のような環境保護と観光事業の両面を有する拠点にしたい。 ※木場潟⇒ビオパーク方式等により水質浄化に取り組んでいる。カヌー競技の世界大会も行われる。美しい日本の歩きたくなるみち500選に認められる。 ・築堤(湖畔)には子供たちの学習の場をつくりたい。 ・水をきれいにして、湖の周辺に潟レストランや潟カフェ等で水面を見ながら食事を楽しむ。釣りを楽しむ。潟でボート遊びができる。潟の中心部に島をつくりたい。

No.	事業案イメージ	取組の内容
7	歩いて暮らせる便利で住みやすい街づくりを計画しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化、高齢化による人口減少社会に対応して、下水道や交通システムなどインフラの効率化を見直し、医療、介護、買い物などを充実させ暮らしやすい街の実現をめざしたい。 ・市民が寄り添って暮らせるコンパクトシティモデルを官民共同で模索しよう。 (例) 富山のLRT(路面電車)活用によるまちづくり
8	各種イベントのリノベーションの有り方を調査・研究する機関を設立しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年行われている公共イベント事業の費用対効果・内容の検討・再構築の研究とそのマーケティング組織の設立を考えたい。 ・経済的効果と心理的満足効果の両面からリノベーション(よりよく作り変える)を図ろう。
9	鳥屋野潟南部に新潟版「アニメ・ロボット・ランド」をつくろう “新潟版ディズニーランド”	<ul style="list-style-type: none"> ・若者や事業者によるプロジェクトの設立を官民で応援したい。2045年の頃には、人工知能ロボットと市民が共存する社会環境になるとの説もある。それを踏まえて著作権者、ロボットメーカーとタイアップしてロボット産業の推進と雇用を先がけていきたい。 ・新潟はアニメ王国をめざしている。国内に類を見ない事業をすることで国内外に発信するアメニティ(遊戯)施設を模索したい。 ・鳥屋野潟南部に動くガンダム、エヴァンゲリオン、パトローバーなど実物大のモニュメント(ランドマーク)を設置し、まずは賑わいを作ろう。
10	「イベント王国・にいがた」を目指した若者主導の事業を作り出そう	<ul style="list-style-type: none"> ・4拠点(古町、万代、新潟駅周辺、鳥屋野潟南部)の連携を基本にした「イベント王国にいがた」を目指した「年間イベントの歳時記」をつくり、あらかじめ市民に公開しながら実行する。 ・その専門の運営株式会社を立ち上げ、新たな企画をしよう。新潟グルメの陣、鮎の陣、ラーメンの陣、電子ゲームの陣、野外コンサートの陣など。新規の若者たちの企画挑戦を促していきたい。
11	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、生活しやすい街づくりや職場づくりをしていこう	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の職場付近に子供をあずけることのできる保育所の確保と支援を。 ・子育ての学習機会の提供や親同士の仲間づくりの場をつくろう。 ・子どもの教育支援をより充実させよう。 ・まちなかに公設無料保育所づくり進めよう。
12	高齢者が安心して暮らせるサービス付きモデル住宅の在り方を模索しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・単身や夫婦のお年寄り世帯が安心して住める健幸住宅を官民共同で模索したい。 ・老後難民にならないための予備活動として、自費で購入する終末の有料ケア付き施設も視野に入れたモデルづくりを行おう。このニーズは潜在化しているが、希望者は多大。

平成 27 年度
「未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化事業に係る
グループインタビュー業務」結果報告書

発行
新潟市中央区自治協議会 拠点と賑わいのまち部会
(事務局:中央区役所地域課)